

活動 30 周年  
記念誌

やませみ通信特別号

— 第 47 号 —

**興津川保全市民会議  
活動 30 年の歩みと  
未来への取り組み**

令和 7 年 3 月

興津川保全市民会議



# 目 次



はじめに	1
1 興津川の姿	2
(1) 河川の流域、延長等	2
(2) 流域マップ	3
2 興津川保全市民会議活動記録	4
(1) 興津川保全市民会議の設立経緯	4
(2) 30年間の歩み	6
3 台風15号による災害発生と対応	8
(1) 水道施設の災害と断水の発生	8
(2) 興津川流域の被災の様子	10
(3) 嶺の子山荘の被災状況と 会員による災害復旧活動	11
4 市民の森づくり活動	12
5 鮎釣り教室と川遊び	16
6 川の生きもの観察会	20
7 興津川クリーン作戦	22
8 森林探検隊	24
9 啓発活動	26
10 各種団体による保全活動	28
11 視察研修	30
12 交流事業	33
13 興津川保全活動の推進団体	34
(1) 清水区自治会	34
(2) 興津川非出資漁業協同組合	35
(3) しみず女性の会	36
(4) みどり情報局静岡 (S-GIT)	37
14 保全活動参加者の思い	38
(1) 興津川保全市民会議・事業委員	38
(2) 市民会議会員と事業サポート委員	42
(3) 事務局	48
15 未来へ向けて 事業委員会からの提言	50
(1) 山の活動拠点『市民の森づくりと 嶺の子山荘』	50
(2) 川の活動拠点『リバーサイド テラス公園構想(案)』	54
16 市民会議活動基金、助成金・寄附金等	58
(1) 興津川保全基金等	58
(2) 保全活動に対する助成金・寄附金	58
終わりに 興津川保全市民会議の活動を通じた サステナブルな「人づくり」	59

## はじめに



興津川保全市民会議 会長  
望月 文人

平成6年8月、清水区の水道資源である興津川の美しい水と豊かな自然環境を守るため、「興津川保全市民会議」が設立されました。

こうして設立30周年の節目を迎えることができましたのも、ひとえに市民の皆様、関係諸団体の皆様のご支援・ご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

興津川は私たちの生活に欠かせない貴重な水源であるとともに、キャンプや鮎釣りの聖地としても広く知られております。風光明媚な興津川流域は、四季を通じて市民の憩いの場となっており、この美しい清流を次の世代へ継承するべく、当会議は市民の皆様を対象とした環境保全事業・啓発活動に力を入れて取り組んでおります。

その一つに、設立当初から継続している「興津川クリーン作戦」がございます。コロナ禍を経て一昨年より4年ぶりに再開し、約1,000名の市民・団体の皆様にご参加いただいております。毎年の清掃活動を通して、我々のふるさと興津川への愛着と自然保護の意識向上に寄与しております。

静岡市は平成18年3月に「静岡市清流条例」を制定し、安倍川・藁科川・興津川の①水質等及び周辺環境の保全②水源の保全③清流との共生④環境教育等の推進の基本原則が定められました。保全活動においては、市民・事業者・市の3者が自発的に協働・共創することが求められております。当会議は、積極的な情報発信に加え、上述のクリーン作戦や、森林整備の重要性を伝える「市民の森づくり」などを通じて、興津川保全の将来の担い手を育成し、持続可能な社会の実現に貢献していく役割があると考えます。

令和4年9月、台風15号が静岡市を襲い、記録的な大雨をもたらしました。大規模な浸水被害や土砂災害、長期にわたる断水などが発生し、市民生活に多大な影響を及ぼしたことは記憶に新しいところでございます。断水の原因となった興津川承元寺取水口の破損・宮嶋橋水管橋の落橋の復旧作業にあたっては、国・県・水道事業体を含む市町・自衛隊・海上保安庁の皆様のご尽力により、被害から13日目で水道水の供給が再開されました。

今回の災害で自然の脅威を目の当たりにし、水に不自由しない生活が決して当たり前ではないことを、身を持って実感いたしました。私達には、この災害の記憶を風化させることなく、興津川流域の豊かな自然を保全する活動を継続していく使命がございます。日頃より、関係各位の皆様のご理解・ご協力によって活動ができていることに心より感謝申し上げますとともに、より一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。会長挨拶とさせていただきます。

# 1

## 興津川の姿

### (1) 河川の流域、延長等

興津川は、本線の流路延長が27.0 kmで、源流から河口まで勾配の強い急流の河川です。清流の鮎釣りの川として知られ、清水区民の水道水源となっている2級河川です。

■流域面積 125.0 K m<sup>2</sup>

森 林 86.1 K m<sup>2</sup>

茶 園 5.9 K m<sup>2</sup>

みかん畑 4.6 K m<sup>2</sup>

■流路延長

本 川 27.0 Km

中河内川 8.9 Km

小河内川 5.9 Km

布 沢 川 2.6 Km

中一色川 2.5 Km

場 沢 川 2.0 Km

黒 川 1.4 Km

■興津川の流量 690,000 m<sup>3</sup> / 日

■上水道取水量 100,000 ~ 120,000 m<sup>3</sup> / 日

■流域人口 19,600 人

第一種水質保全区域 8,600 人

(承元寺取水口より上流)

第二種水質保全区域 11,000 人

(承元寺取水口より下流)

■流域の生物

魚 アユ、アマゴ、オイカワ、アユカケ等

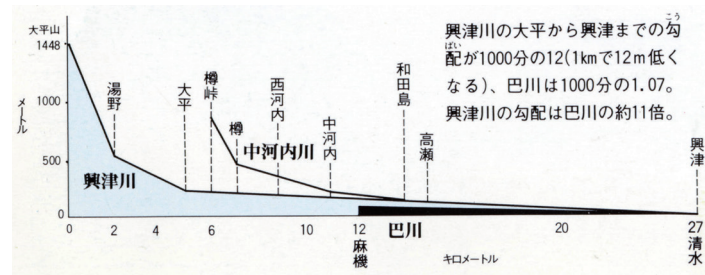
34 種

水生昆虫 98 種

鳥 104 種

哺乳類 16 種

■興津川の吊り橋 14 カ所



立花より小島小学校方面を望む興津川の景観

## (2) 流域マップ



興津川保全市民会議・事務局長 森口 修

### 設立経緯について

私は、旧清水市の時から在職中はほぼ一貫して市の環境行政（公害対策・環境保全・環境創造）に従事し、「興津川保全市民会議」の設立にも深く関わりましたので、その約30年を振り返ってみます。

興津川保全市民会議は、市民の水道水源の環境を開発による水質汚染から守るため、市民総参加の体制づくりにより設立されました。そして、事業委員長、事業委員の方々をはじめとして多くの市民が参加し、30年に亘り活動が活発に継続されたことが「市民会議」に命を吹き込み、各層の共感を呼びました。その息長い継続的取組こそが、最も価値あることであり、きっと、「興津川」は喜んでくれています。

### 旧清水市の官民一体による環境対策の取組

旧清水市の環境行政（水質環境改善行政）は、昭和45～46年、汚濁の進んでいた清水市内河川、とりわけ市の代表河川の「巴川の水質改善対策」がスタートでした。河川環境の悪化は、工場排水のみならず家庭排水の比率も高く、幅広く市民に環境改善への意識を持ってもらうことが重要であると気づき、平成元年、流域住民・行政関係者（静岡県・静岡市・清水市）による「巴川快適環境づくり協議会」が発足しました。ここでの官民一体の活動は、大いに勉強になり、勇気づけられ、後の「興津川保全市民会議」発足へと繋がりました。

### 興津川流域のゴルフ場開発計画への懸念

昭和60年代に入り、興津川流域にゴルフ場の大規模開発が次々と計画され、具体化していないものを含め9の計画がありました。ゴルフ場開発面積は膨大で、流域の自然環境の破壊、水量保全への影響、農薬による水質汚濁等が心配されました。特に、清水市民の水瓶である興津川流域への影響が懸念され、流域の開発と保全の調和、特にゴルフ場開発への対応を中心とする「環境管理計画」を策定することになりました。

しかし、当時ゴルフ場開発そのものを規制する法律はありませんでした。そのため、「管理計画」策定と並行してゴルフ場開発指針を策定し、開発に対応したミティゲーション（開発への代償策）、農薬の種類や使用料の規制などを定めました。平成4年「管理計画」は「清水市北部山間地環境管理計画」として策定され、平成5年、計画の中心を成す興津川保全を担保するために、景観・水源・水質保全を目的とした「興津川の保全に関する条例」を定め、この条例を資金面からサポートする「興津川保全基金条例」が制定されました。

### 興津川の清流のシンボル「やませみ」

「清水市北部山間地域環境管理計画」の中心である興津川のシンボルを「やませみ」としました。これは、「管理計画」を検討する中で、N教授から、「やませみ」が棲息できる環境の保全（水質・大気）と開発の目標を目指せ」とのお話を頂き、シンボルとさせていただきます。



興津川の清流のシンボル「やませみ」



シンボルマーク

### 平成6年「興津川保全市民会議」の発足

さらに、平成6年「管理計画」、「条例」の理念を行政と市民が連携して実現・推進する市民参加組織として「興津川保全市民会議」が組織されました。名称に関しては「興津川環境保全協議会」「興津川清流保全推進協議会」「興津川流域環境づくり協議会」等の様々な名称が候補となりました。そして、市民の誰もが参加することに重点を置き、親しみがもて、また新しい印象の名称として「興津川保全市民会議」を提案し、決定されました。



## 興津川源流探険隊が保全活動の出発点に

興津川保全市民会議の最初の企画は、『源流探険隊』でした。平成6年8月12日と13日の2日掛けて田代峠付近の源流で水を汲み、それを持って本川を下る隊と、並行して支援するサポート隊により、興津川を歩いて河口まで運びました。源流の水を駿河湾に流し、『市民の命の水である興津川の水が、いつまでも豊かに、かつきれいでいるように保全活動を続けよう』と誓いました。この2日間の水の旅で目の当たりにしたことは、上流から河口まで多くの人が川遊びや鮎釣り、バーベキューなどで親しまれている川であることと同時に、河原には簡単には拾いきれないほど沢山のゴミがある川となっていることでした。

この企画で学んだことが次の「興津川クリーン作戦、鮎釣り教室と川遊び、森林探険隊」などの企画として実施されてきました。



源流から探険隊員が川を下った



河口にて、清流興津川の保全活動推進を誓う

## 興津川保全基金のための募金活動

興津川に関する条例及び市民活動を「興津川保全基金条例」の制定を受けて、保全活動を資金面から支援していただくための幅広い募金活動が始まりました。自治会の組織を通じて市民一人ひとりに語りかけるため、自治会の集會に呼ばれば何度も足を運び募金への協力を呼びかけました。商工会議所を通じて市内の企業、事業所にもお願いをしました。そして、市内の観光客や人の集まる場所には、募金箱を設置していただきました。その結果、現在までに、2億5千2百万円の基金が集まり、これまでの保全活動の資金として運用されてきました。



市民が多く集う街頭において募金活動

## 静岡市への合併後も保全活動継続

平成16年に旧清水市と静岡市が合併し、静岡市になり、今後河川行政がどのように取り組まれるのかと心配もしました。しかし、平成18年3月に、興津川、藁科川及び安倍川に代表される清流を後世に残すための『環境基本計画』を策定し、『清流の都・静岡』の創造を目指して行く事となりました。

その結果、興津川保全市民会議の活動も、静岡市の清流の保全を市民、事業者、行政の協働により推進していくことが認められ、今日まで継続してきました。

## (2) 30年間の歩み

### ■ 「やませみ通信」より

興津川保全市民会議（以下「市民会議」という）の活動の様子は情報誌「やませみ通信」において広く広報してきました。これまで発行した46号の記事から、市民会議の活動の様子を抜粋して紹介します。

### ● 1年間の定例活動

現在の年間の定例的活動は以下の通りです。

#### ● 1年間の定例活動の定着 ●

4月：市民の森づくり「植林と竹の子掘り」  
5月：市民会議総会と講演会（適宜）  
7月：市民の森づくり「下草刈り」  
・鮎釣り教室と川遊び  
8月：川のセミナー「川の生きもの観察会」  
9月：興津川クリーン作戦  
10月：視察研修  
11月：森林探検隊  
2月：各種イベント、出前教室等啓発活動  
3月：市民の森づくり「植林地の地ごしらえ」  
以後毎年実施

↓  
令和6年度現在まで

### ● 年度毎の主要な活動経過

- 平成6年8月1日 興津川保全市民会議発足
  - ・8月7日 「清水みなとまつり」会場等にて募金活動を開始
  - ・8月12～13日 興津川探検隊による源流から河口までの水の旅実施
- 平成7年5月14日 第1回鮎釣り解禁前興津川クリーン作戦開催
  - ・7月30日 清水みなとまつり（啓発活動、募金活動）
  - ・10月22日 第1回森林探検隊
  - ・11月17日 先進地視察「豊田市・矢作川水道事業視察」
- 平成8年2月13日 第1回やませみ山のセミナー
  - ・8月26日 第1回やませみ川のセミナー
  - ・12月7日 先進地視察「天竜市・阿多古川水辺の里づくり連絡会」

- 平成9年9月27日 先進地視察「志賀県立琵琶湖博物館」
  - ・10月15日映画「草刈り十字軍」上映支援
- 平成10年11月13日 先進地視察「神奈川県東丹沢県民の森」
- 平成11年4月4日 第1回市民の森づくり「地ごしらえ、植林」
  - ・5月10日 興津川フォトコンテスト受け付け開始
  - ・7月11日 第2回市民の森づくり「下草刈り」
  - ・10月23日 興津川フォトコンテスト表彰式
  - ・10月1日 先進地視察「岐阜県川島町建設省・自然共生研究センター」
- 平成12年9月29日 先進地視察「田貫湖ふれあい自然塾」  
「まなびの森 フォレストワーク」
- 平成13年10月4日 先進地視察「岐阜県間瀬村・エコリバーシステム」
  - ・10月27日 第1回しずおか川自慢大賞参加
- 平成14年2月21日 第1回「消費者フォーラム」にて発表
  - ・6月8日第1回興津川エコレンジャー「興津川上流体験」
  - ・8月1日 国土交通省より「水資源功績者表彰」を受賞
  - ・9月26日 先進地視察 山梨県早川村「野鳥公園」 忍野村「さかな公園」
  - ・10月26日 第2回しずおか川自慢大賞参加 / 審査員特別賞受賞
- 平成15年7月12-3日 川の日ワークショップ参加（東京代々木）
  - ・8月2-3日 川に学ぶ体験活動全国大会 in 徳島参加
  - ・9月26日 先進地視察三重県名張市「赤目の里山を育てる会」
- 平成16年6月7日 「水環境保全功労者表彰（環境省）受賞」
  - ・9月4日 第9回鮎釣り解禁前興津川クリーン作戦

- 10周年記念事業「竹アートと大流しソーメン」
- ・ 9月30日 先進地視察  
愛知県豊田市「トヨタの森」
- ・ 11月～ 10周年記念事業「清流のうた」  
募集開始→1月～10周年記念事業  
「清流のうた」締切、審査
- 平成17年2月9日「清流のうた」表彰式
  - ・ 6月4日 環境保全知事功労賞授賞式（静岡県）
  - ・ 9月15日 視察研修「愛・地球博」
- 平成18年6月2日 第1回ホテルを見る会
  - ・ 11月18日 市民の森「展望台」完成
  - ・ 11月29日 水環境保全活動・自然環境保全活動等功労者表彰最優秀賞・環境大臣賞授賞式
- 平成20年3月8日「清流の歌」音楽会
  - ・ 11月27日 視察研修「国土交通省水辺共生体験館」「東京大学愛知演習林」
  - ・ 平成21年10月29日 視察研修「東京大学・富士演習林（山中湖村）」
- 平成22年1月27日 視察研修  
「豊田市矢作川研究所」
- 平成23年6月22日「平成23年度緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」受賞
- 平成24年1月29日「内閣総理大臣表彰受賞記念フォーラム」「静岡市市長顕彰」受賞
  - ・ 11月1日 視察研修  
山梨県北杜市「三分一湧水」



首相官邸にて内閣総理大臣表彰を受賞（山田前会長）

- 平成25年6月6日～6月31日
  - ・ 興津小学校「エコモデル事業」出張教室

- ・ 11月16日 森林探検隊で新企画「空中スライダー」を始める
- ・ 11月30日～26年2月1日 視察研修  
横浜臨海パーク「夢ワカメ・ワークショップ」参加
- 平成27年2月7日 静岡新聞社主催  
「ふるさと貢献賞」受賞 表彰式
- 平成28年2月21日 興津川保全市民会議  
「20周年記念イベント」開催
  - ・ 興津川保全市民会議功労者表彰
  - ・ 清流俳句受賞者表彰
  - ・ 7月7日 第17回日本水大賞・審査部会特別賞受賞
- 平成29年2月27～28日「サイエンスピクニック（静岡科学館）」参加
  - ・ 12月2～3日 視察研修  
「三重県速水林業と清流銚子川」
- 平成29年10月7日 視察研修『山梨県早川町（糸魚川～静岡構造線）新倉露頭視察』
- 平成30年11月8日 視察研修  
「明治神宮100年の森づくりを学ぶ」
- 令和1年3月15日 興津川水系流域委員会  
第1回会議出席
- 令和2年8月～11月 嶺の子山荘「竈づくり」
- 令和3年1月（静岡県）令和2年度森づくり  
県民大作戦「森づくり貢献賞」受賞
  - ・ 5月 山の料理教室
  - ・ 8月6日 和田島 de 沢のぼり
- 令和4年9月23～24日『台風15号災害』  
嶺の子山荘災害復旧活動



# 3

## 台風 15 号による災害発生と対応

### (1) 水道施設の災害と断水の発生

#### 大規模災害発生

令和 4 年 9 月の台風 15 号により、本市では記録的な雨が降り、市内各所において大規模な浸水被害や土砂崩れ等が発生しました。

特に、水道の取水場の取水口や輸送管が災害を受けたことにより広範囲かつ長期において断水が発生するなど、市民生活に大きな影響を及ぼしました。

#### 台風 15 号の概要・気象の概要

台風 15 号は 9 月 23 日（金）9 時頃に室戸岬の南約 300km で発生し、北から北東へと進路を変えながら日本列島に上陸することなく、24 日（土）9 時には東海沖で温帯低気圧に変わりました。しかし、台風の接近により大気の状態が不安定となり、局地的な前線による雨雲が発達し、同じ地域に猛烈な雨が降る線状降水帯が発生し、降り始め（9 月 22 日（木）5 時）から 24 日（土）17 時までの積算で、静岡県の中中部、西部で 500 ミリを超えるという記録的な短時間大雨となりました。

この大雨により、市内各所において、大規模な浸水や土砂災害が発生し、住家被害や施設被

害などのほか、広範囲の停電や断水などライフラインにも甚大な被害をもたらしました。

#### 水道施設の被害

興津川の急激な増水により、興津川承元寺の取水口が破損し、谷津の浄水場への供給が出来なくなりました。

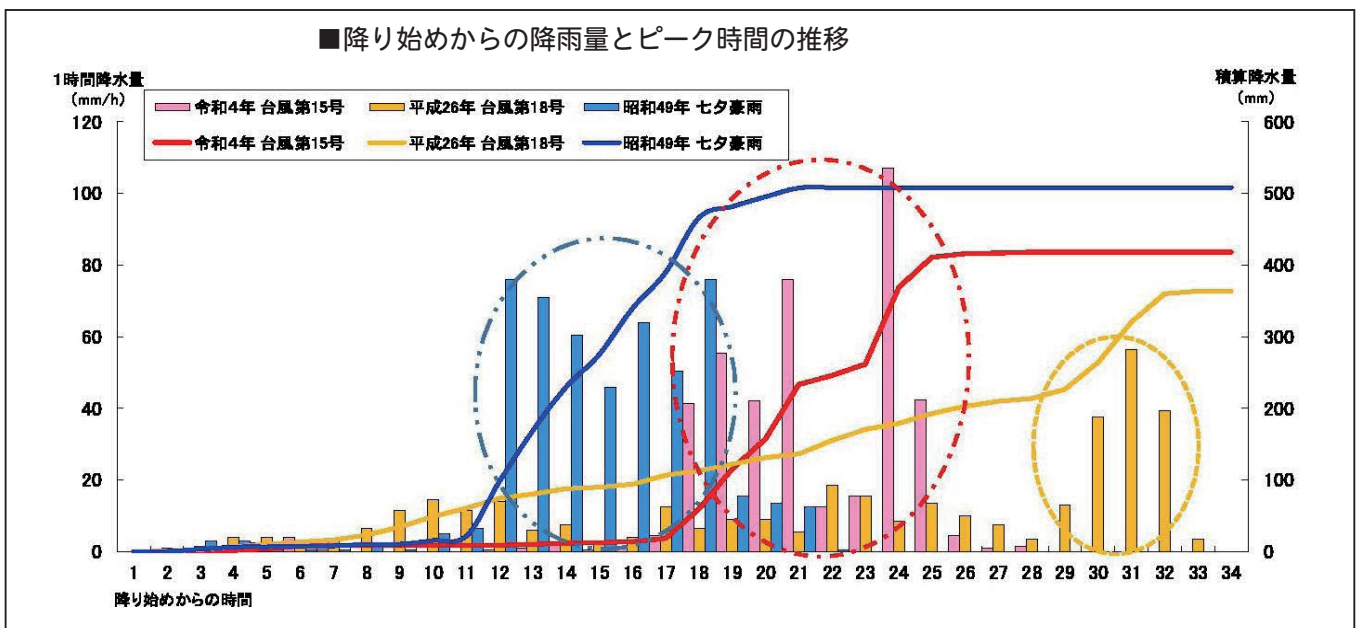
また、興津川上流の清地地区の宮島水管橋の落橋が原因で、小島地区を含む和田島ブロックの全域が断水となりました。

#### 断水被害

断水被害は、柏尾配水池地区と草薙配水池地区の一部を除き清水区全域が断水となりました。断水は、9 月 24 日（土）から 27 日（火）までの間に最大約 63,000 世帯となりました。

#### 水道施設の施設の大切さを認識

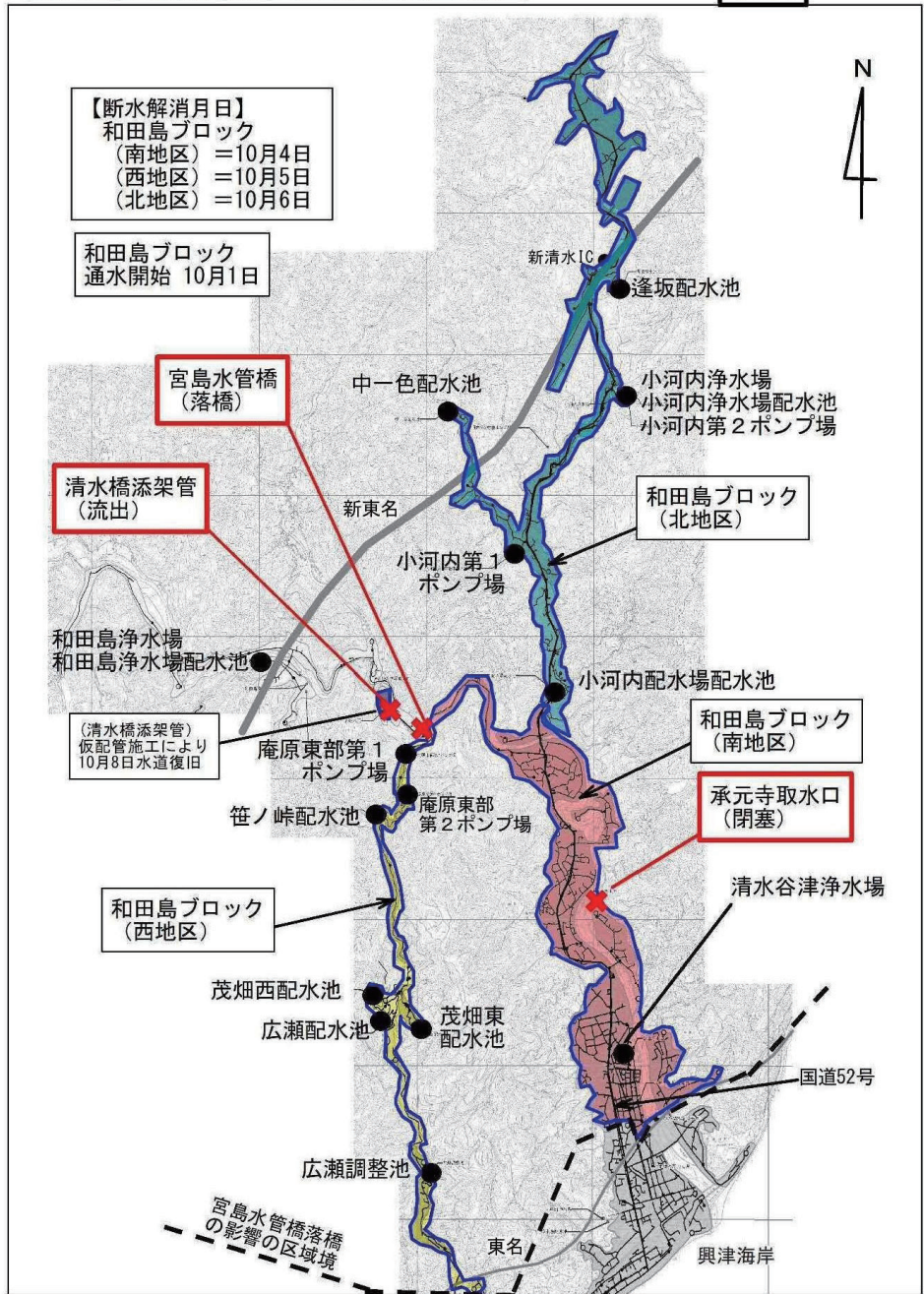
断水で水道が使えなくなった地区の皆さんは、その復旧まで、飲料水を始め、トイレやお風呂、洗濯など水の確保に大変苦勞をされました。その体験を通して、水道の蛇口を回せば普通に出てくる水が、大切な『命の水』であることを実感されたことと思います。



資料：「清水区の断水等による被害と対応状況について（台風15号関連）」  
 2022年10月12日 静岡市資料より 抜粋

### 宮島水管橋落橋による断水区域図

令和4年



谷津浄水場に水を引き込むための承元寺取水口に、流木や土砂が流れ込み、河川から水が取得できない状態の施設の様子



宮島水管橋（緑色の水管）が落橋し、送水できなくなる

## (2) 興津川流域の被災の様子

興津川では洪水災害の記録は古くから残されており、そのたびに流域の人々の生命と暮らしが脅かされてきました。

普段は清流の流れる興津川ですが、50年に一度という豪雨による災害を目の当たりにし、その大きさに驚かされました。

### 興津川周辺の被害状況

そして、今回の台風15号による内水氾濫によって民家への床下浸水、床上浸水の被害が数

多く発生しました。また、興津川の堤防や道路、橋など公共土木施設への被害も大きく、そのため河川の災害復旧工事により、興津川の景観も大きく変わりつつあります。

歴史があり、風情があった清地の清水橋



今回の洪水により崩壊し失われてしまいました



堰堤は多くの土砂が堆積して埋もれてしまった



河川沿いの道路も各所で崩壊し、一時通行止めに



堤防を越した泥水により埋まってしまった道路



河川のいたるところで見られる土砂堆積

### (3) 嶺の子山荘の被災状況と会員による災害復旧活動

#### 嶺の子山荘の災害状況

台風 15 号により、市民会議が管理する嶺の子山荘においても区域内を流れる沢の氾濫により多大な被害が発生しました。その災害の様子と復旧作業について紹介します。

最も心配したことは、嶺の子山荘に通じる主道路の一部が崩壊して、道幅が狭くなってしまったことでした。そして、地区内を通る沢の上に設置してある水道施設も土石流により埋まり水を使えなくなりました。また、中央の広場は、周辺の山から流れ出た土砂により、土で覆れてしまい、活動が出来なくなりました。



嶺の子山荘への道路が崩壊して危険な状態に



沢の中の水道施設は、土石と流木に覆われた  
**みんなで汗かき復旧作業**

市民会議の事業委員会では、原状回復へ向け自分達で出来る事から作業を始めようと、会員の参加、協力を呼びかけると、多くの人から協力の申し出をいただきました。

最初に、水道施設に積もった土石を取り除き水道として利用出来るようになりました。

更に、広場上流部からの山の水は、流木や大きな石を掘り出し、その流れを沢の方へ誘導するように土嚢を積み、水道（みずみち）を作り、広場へ水が流れ込まないようにしました。

そして、嶺の子山荘への道路の崩壊部分は、静岡市の協力により石積みの擁壁が整備され安心して通行できるようになりました。

#### 広場の再生整備を行う

荒れてしまった広場の流木や雑草を取り除き、休憩やバーベキュー、そしてキャンプなどのできる広場づくりも行いました。こうして、少しずつ嶺の子山荘の再生整備が進められました。



山からの水を沢の方へ誘導する土嚢積み作業



土砂に埋もれた広場の復旧作業を協力して行う

#### 水を守る活動の大切さを忘れないで

今回の台風 15 号は、断水災害をもたらし、改めて水道水の大切さを知る機会となりました。

私たち興津川保全市民会議は、この災害を忘れることなく、いつまでも豊かな水を育み、水道水を供給してくれている興津川流域の緑豊かな山と、きれいな川の保全活動を今後とも継続していかなければと改めて決意しました。

# 4

## 市民の森づくり活動

### 緑の山づくりの体験活動を始める

市民の『命の水』である興津川の水が1年を通して豊かに、かつきれいに流れているのは、流域の山が緑のダムとして機能しているからです。市民会議では、これまで林業家が長い年月を掛けて育ててきた緑の山づくりを、市民の皆さんと山への植林活動を通じて、その大変さと楽しさを体験し、学んで来ました。

### 第1期植林活動

最初の植林地は、ふれあいの森公園の北側の貝伏（かいぶせ）集落地区から急な林道を歩いて登った標高400～500mのスギ、ヒノキ林を皆伐した急傾斜地でした。この斜面地に植林を行い再び緑の山を復活させようと始めました。

### 人力による急な山道の植林資材運び

植林活動は、市民会議の会員である「みどり情報局静岡（S-GIT）」の林業関係者が指導員となり、参加者を会員から募りました。

活動日は、貝伏集落の茶畑に集合し、植林の苗木や草刈り機、鋤（くわ）などの資材を分担して持ち、植林地まで急な山道を登ります。そして現地に到着し、一休みして植林の開始です。



富士山を背にした急傾斜地での集合写真

### 植林、下草刈り、地ごしらえの作業

植林を行い木を育てるために、次に示す年3回の活動を行って来ました。

#### ・4月の植林

4月の植林は、事務局が用意した苗木を植えます。新参加者は、先輩から植林方法を学び、指導に従い穴を掘り、苗木を植えて、土で覆い、

添え木を立てます。最後に、植えた人（親子が多い）の名前と植林日を書いた名札を取付けます。

#### ・7月の下草刈り

7月には植えた木を覆うように雑草が育っています。そのため、その回りの雑草を刈り取る「下草刈り」を行います。夏の暑い時期ですので、現地までの山登りも大変です。なるべく午前中の少しでも涼しい時間に済ませます。

#### ・3月の地ごしらえ

4月に植林するために、植林場所を選定し、草を刈り整地する「地ごしらえ」を行います。

### 針葉樹、広葉樹、放置林区域に分ける

対象地区の面積は約0.8haで、この区域を木の育て方により、大きく3区域に分けました、

1つの区域は、広葉樹などの多様な樹木の森、次に、これまで戦後の緑の山を作ってきた、スギ、



市民の森入り口看板



山大好き孝太郎君親子



急傾斜地に既存の木で作った休憩・展望台

ヒノキの森、最も傾斜のきついところは、放置したまま自然に変遷復帰する森です。

### 広葉樹の森づくりの大変さを知る

理想を掲げて、水を多く蓄えるというブナなどの広葉樹の森づくりを行おうとスタートしました。しかし、植えても植えても直ぐにシカに新芽を食べられてしまいます。いろいろと食害対策を行いましたが、ほとんど大きくなるまで育てることが出来ませんでした。



苗木を守るヘキサチューブで覆った植樹方法

それに対して、スギ、ヒノキの森と自然放置の森は変遷を繰り返し、緑の森となりました。

このような活動を約10年間行い、森づくりの大変さや楽しみなど、いろいろと経験を重ね、多くのことを学ぶことが出来ました。

## 第2期植林活動

第2期植林活動用地は、興津川の中流の大網地区の吊り橋を渡り、林道を登った標高約300mのスギ・ヒノキを皆伐した用地を対象にしました。この場所は、尾根の背に当たり、そこからは眼下に集落や中部横断道が見え、南には駿河湾や三保半島が望める眺望が良く、日当たりの良いところでした。



スギ、ヒノキを皆伐した日当たりの良い植林地

## 100年の森づくり

植林地の近くには、S-GITが活動拠点としていた嶺の子山荘があり、そこを拠点として植林地に行き、森づくり活動を行いました。

植林活動のテーマを『100年の森づくり』として活動を始めました。



参加者の家族が協力して植林を行う

### 成長早い雑草との戦い

ここは日当たりの良いとてもところでした。しかし、それが雑草には成長しやすい条件となり、植えた木はすぐに覆われてしまい、毎年大量の「下草刈り」に追われました。



植えた木を覆う草を刈る「下草刈り」作業



100年の森づくりを目指して皆で植林作業

### 第3期植林活動

第3期の植林地は、嶺の子山荘地区内とすることになりました。嶺の子山荘は、オーナーの片瀬さんが、子どもたちが森の中で自然と触れあい、学ぶ環境学習の場として整備したところです。近年、片瀬さんが亡くなられたため、その意志を継ぎこの地を管理していた清水山岳会との話し合いで、今後は市民会議が中心となり利用させていただくことになりました。

嶺の子山荘用地は約3haあり、その中にスギ、ヒノキの植林地、雑木林、平坦な中央広場と山小屋などの施設があります。地区の中央を小川(沢)が流れており、その水を水道水源とした水飲み場が設置されています。

#### 植林対象地

植林活動は中央広場に隣接する緩傾斜地を植林対象地として始めました。ここでは、これまでと同様に、4月の植林、7月の下草刈り、3月の地ごしらえなど年間の作業計画に従い実施してきています。

#### 鹿対策でできる限り大きな苗木を植える

近年、植林樹木の選定には、できる限り大きな苗木を植えるようにしました。これまでの経験から、小さな低い木では、植えると直ぐに野生の鹿に新芽を食べられてしまい、なかなか大きく育たないからです。これは植林活動をしている人達の共通の悩みです。植林地の回りを高い網で囲って鹿を近づけないようにするなどの対策は市民会議では資金的にも出来ません。

そこで、数は少ないですが大きな木を選定し、1家族で1本を植えるようにしました。



植えた木と参加者の名前を付けた札を吊します



参加者は植林や下草刈りなどの方法を学びます



鹿に食べられない事を願い背の高い木を植える



植林した木の前で記念撮影

## ●市民の森づくり活動とお楽しみ

市民会議では、ボランティア活動を継続するには、楽しくないと続かないと考えています。

そのため、植林や下草刈りなどにより汗を流した後は、いろいろと楽しく過ごせる機会づくりをしています。

### 第1期 植林後の「御前の滝」巡り

第1期植林活動を終えた帰り道には、近くにある『御前の滝』に立ち寄り、涼みました。

この瀧は、高さ10mほどの落差があり、森の中に流れ落ちる瀧はとても荘厳です。

特に夏の下草刈りの後は涼しく、快適です。瀧つぼには、2匹の大きなカエルが住んでいて、それを子どもたちが見つけて写真を撮るなどして楽しく過ごしました。



悲しい伝説も伝えられる、森の中の御前の滝

### 第2期、3期は嶺の子山荘広場で

第2期、3期植林活動の後には、嶺の子山荘広場がお楽しみの場になっています。

#### ・竹の子掘りと竹の子汁

4月の植林の後には、広場周辺の竹林で竹の子掘りをします。広場では、大きな鍋にお湯を沸かして待っていて、採ってきた竹の子をその場で皮を剥いで煮ます。

お昼は、できたての竹の子汁をおかずにも美味しいお弁当を食べます。



親子で協力して竹の子掘り



掘った竹の子を直ぐに茹でて竹の子汁に

#### ・大シーソー

中央広場から一段上がったところには大きな丸太のシーソー広場があります。

子どもたちはこのシーソーが大好きで、2組に分かれて楽しんでします。



### 市民に親しまれている清流の興津川

興津川は鮎釣りの川として有名です。毎年5月20日が、東日本で最初の鮎釣りの解禁日で、沢山の釣り人の竿が並ぶ様子が紹介されます。

また、興津川の清流は市民にも親しまれていて、夏には多くの家族連れなどが訪れ、水泳やバーベキューなどを楽しんでいます。

### 鮎釣り教室と川遊びセミナーの開始

市民会議の第1回「鮎釣り教室と川遊びセミナー」を平成18年7月に開催しました。

一般的な魚釣りの方法は、釣針に餌を付けて釣るというシンプルなものです。

しかし、鮎釣り教室では、最も知られている『鮎の友釣り』を行います。生きているオトリ鮎を付けて鮎の友釣りに挑戦してもらいます。



### アユの一生と習性

鮎釣りを上手にするためにはアユの特性を知らなければ出来ません。

セミナーでは、市民会議が作成した「鮎釣りの極意解説書」により、アユの特性や鮎釣りの仕掛けと釣り方などを説明します。

#### ・アユは1年で一生を終える「年魚」

アユの産卵は、秋に河口近くの川底の石に行われ、ふ化した仔アユは流されて海に下ります。そして、海のプランクトンを食べて5～6cmほ

どに成長したアユは、水温が高くなった春に河口から上流を目指して遡上（そじょう）し、石に着いた付着藻類を食べ成長します。この時、自分の餌場を縄張りとし、他のアユが縄張りに入ってくるとたちどころに攻撃して追い払います。そして、体が大きく成長したアユは秋には河口に下り産卵をして一生を終えるのです。このようにアユは何万年の間、1年ごとに命のバトンを繋いできたのです。

### アユの習性を利用した鮎釣りの仕掛け

アユの友釣りは、釣り人が生きたオトリ鮎に仕掛け針を付け、川の中の縄張りを持ったアユ（野アユ）に近づけて、体当たりをしてきたアユを針に掛けて釣り上げる釣法です。

このように生きたアユを使って釣るためには、その糸と針の仕掛け、それを操る竿、生け捕るためのタモ、釣ったアユを生かしておくための生け簀（す）など、とても多様な道具が必要です。また、生きたオトリ鮎を自由に誘導するためには経験と技術が必要です。



アユの習性を利用した「アユの友釣り」の説明

### 鮎釣り名人と一緒に鮎釣り

このような友釣りは、初心者には簡単に出来ません。そのため、市民会議では、1家族に1名の指導員（鮎釣り名人）と一緒に付いて釣ります。

参加者は、鮎釣り名人から生きたアユの扱い方、仕掛けの付け方、川の中への入れ方、竿の持ち方、アユのいそうな場所への誘導、そして、もし野アユが掛かった時の移動、タモへの取り込み作業などを教わり、鮎釣りに挑戦します。

実は、鮎釣りの初心者も、1日で1匹でも釣れば上出来といわれます。ところが、市民会議の鮎釣り教室では、鮎釣り名人の指導が良く午前中の2時間ほどで10匹近く釣る人もいました。



アユの友づくり開始



鮎釣り名人から竿の扱い方を教わります



家族と一緒に友釣りを行います



興津川の自然のアユ



アユの友づくりで掛かったアユを指導員と取り込む

### 清流の中での鮎釣りは快適で最高！

アユが釣れた数（釣果）は、その時の川の状態や釣場所などにより様々です。しかし、それとは関係なく、暑い夏の日、興津川の冷たい清流に足を入れて、オトリ鮎を川の中に泳がせ、いつ釣れるだろうかと過ごす時はとても快適で、楽しいひとときです。



暑い夏も興津川の冷たい水の中での鮎釣りは快適

## お昼は、アユの塩焼きでお弁当

お昼の12時頃になると鮎釣りを止め、集合場所に集まり、家族毎の釣果を報告します。

そして、昼食のお楽しみは、事務局で用意したアユの塩焼きをおかずに食べるお弁当です。

近年では、興津川漁業組合長が焼いてくれる塩焼きが美味しいと評判で、これまでアユの塩焼きを食べたことのない参加者も大喜びです。



午後はスイカ割り



興津川の天然アユの塩焼きは最高に美味しい！



何とか1匹は釣りたいと頑張ります

## 午後は、川遊びで過ごす

午後は、鮎釣りをしたい人と川遊びをしたい人に分かれて過ごします。

子どもたちの多くは、水着に着替え、安全のためのライフジャケットを着けて、川の中に入り、泳いだり、ゴムボートに乗るなどして楽しく過ごします。

事務局では下流部に監視係を配置して事故がなく安全に川遊びが出来るように見守ります。



午後の川遊びは水泳、ゴムボート遊びなど自由に

## 川中島からの救出訓練

楽しく過ごすとともに、川での事故の発生を防ぎ、危険回避を学ぶことも行います。

近年多い、キャンプ中に急な大雨が降って川中島に取り残された人達を想定した救出訓練なども行います。



川中島に取り残された人をロープで救出する訓練  
感想を聞き集合写真を撮る

午後の川遊びの後は、本部に集まって1日の感想を報告します。

そして、最後にアンケートを書き、集合写真を撮る頃には参加者の皆さんの顔は一様に明るく元気になっています。



鮎釣り教室と川遊びをした後は、皆で元気に集合写真

### 興津川の生きものの種類

興津川に生息する生きものとして、魚では、有名なアユの他、アマゴ、オイカワ、アユカケ等 34 種、水生昆虫は 98 種が確認されています。

これらの魚や水生昆虫は、水の水質、温度、含まれる栄養素、プランクトン、水中にある石や岩とそこに生える藻など多様な条件により、住む場所が異なります。

### 川の水質を知る『川の生きもの観察会』

市民会議では、興津川の水が市民の水道水源であることから、川に棲む生き物を採取する川の変遷を比較することにより、その水の飲み水としての”きれいさ”を知るため「川の生きもの観察会」を開催してきました。

市民会議では、下流部にある谷津の浄水場の取水口の近くの承元寺地区、そして上流部の黒川において水生生物を採取してその種類などを比較し、きれいさを確認しました。

### 講師は川の生物観察の専門家に依頼

川の中にいる生物を知るには専門的な指導者が必要です。市民会議では、東海大学の海洋学部の先生を講師として観察会を行ってきました。特に、北野先生には、三保の大学に在籍する時に始まり、神奈川県のカンパシに移動してからもゼミの学生とともに観察会に駆けつけていただきました。

また、近年では、静岡県の水産試験場にお勤めの鈴木先生を講師として開催しています。

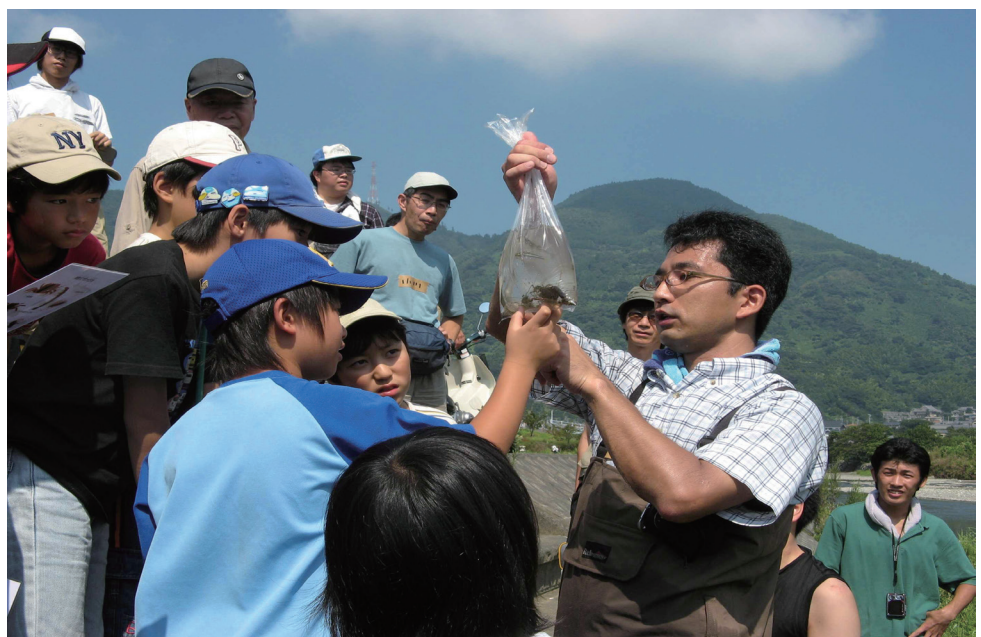
### 川の生きもの採取作業

承元寺や黒川の河原に集合すると、講師の先生から、網を使った川の生きもの採取方法を教わります。そして、早速川に入り、採取を始めます。参加者には、北野先生のゼミ学生が、手取り足取りで水生生物の捕り方を指導するとドンドン上手になり、沢山の生きものを採取できました。

その生物としては、アユ、アマゴ、タカハヤ、アブラハヤ、カワムツ、オオヨシノボリ、シマヨシノボリ、シマドジョウ、サワカニ、カジカガエル、ヒラタカゲロウ、カワゲラ、ヒゲナガカワトビケラなど、多種、多様でした。



川の生きもの採取は楽しい作業です



東海大学の北野先生に採取した生きもの種類や名前を教してもらいます

## 楽しい流しソーメン

お昼のお楽しみは、楽しい流しソーメンです。流しソーメンを流す竹の水路は、当事業委員が制作し、現地で組み立てます。流しソーメンを茹でて作るのも事業委員で、長年清水女性の会の方達に作っていただきました。

当会の流しそうめんは、ソーメンのみでなく、途中から、みかんやブドウなどが流れてきますので、参加した子どもはもちろんその親御さん達も必死でつかみ取ろうと頑張ります。そんな流しソーメンはいつも大賑わいで、あっという間に終了します。



いつも大人気の竹の長しソーメン



講師の鈴木先生は、生きものの採取がとても上手

## 採取した川の生きものの観察

採取した生きものは、青少年自然の家等の教室に行き、分類整理をします。そして、北野先生などがその名前と特徴などを教えてくれます。

特に、東海大学の名誉教授の(故)永井先生には、アユが石に着いた藻を柔らかい唇で削ぎ落として食べるという特色ある口について、パワーポイントの画像や顕微鏡を使って詳しく教えて頂きました。



毎回いろいろな生きものが採取できます



永井先生による川の生きものの説明にみんな真剣

## 修了証書授与

最後に、成瀬先生から修了証書が授与され、川の生きもの観察会は終了します。



# 7

## 興津川クリーン作戦

### 水道水源の川を汚さない

市民会議の活動の目的の1つに、清らかな水が流れる興津川の保全活動があります。

平成6年8月に市民会議が行った「興津川の源流から河口までの探険」イベントでわかったのは、河原に落ちているゴミの多さでした。上流から川を下りながらゴミ拾いをしましたがとても拾いきれるものではありません。そこで、市民会議が最初にやるべき事は、興津川の河原からゴミを無くして、河川の水を汚さないこととしました。それは、川を伝わり流れ出る駿河湾及び太平洋の海にゴミを流さないための活動でもあるとして頑張ろうと決めました。

### 平成7年5月鮎釣解禁前のクリーン作戦開始

興津川の夏の活動の始まりは、毎年5月20日のアユの解禁日です。その解禁日前の平成7年5月14日(日)に第1回の「興津川(鮎釣解禁前)クリーン作戦」の開催を決めました。そして、参加者を募集したところ市民会議の個人会員、参加団体、地元住民、企業、市役所職員他多くの参加申し込みが得られ、和田島、雨乞い、茂野島の3箇所の収集場所で実施しました。すると、一見きれいそうに見えていた河原も、一歩草むらに入ると空き缶、プラスチック、一斗缶など沢山のゴミが見つかり、クリーン作戦の区域拡大と継続の必要性を確認することとなりました。



毎年多くの参加者のある和田島橋会場

### クリーン作戦におけるゴミの量の推移

その後は参加団体も増え、平成9年5月は、開催場所を増やし5会場とし参加者1,300人で、クリーン作戦を実施しました。その年のゴミの量は可燃物8トン、不燃物4トンで総量12トンでした。更に平成10年5月には1,500人が参加し、可燃物2トン、不燃物4トンで総量6トンでした。その後も、同じ会場で実施しているため、総量は、平成25年に960kgと1トンを切りました。近年の最小は平成29年の総量530kgで、開始当時に比べ、とても少なくなりました。



当初は不燃ゴミが大量に回収された

### 減らない可燃ゴミ

可燃ゴミの総量は、クリーン作戦を開始して5年後には760kgと1トンを切りました。

しかし、その後23年が経過しましたが、総量が500kgより少なくなることはありません。このことは、不燃ゴミは減っても、可燃ゴミはなくなることがなく、クリーン作戦を継続しなければ、そのゴミが興津川を介して清水港、駿河湾、太平洋へと流れ出てしまうと言う事が明らかになりました。



## 河川から太平洋に流出するゴミの量は？

興津川は2級河川で延長27 km、流域面積125.0 km<sup>2</sup>で、人口は22,000人です。これまでの結果の平均から、毎年800 kgが流出しているとすると1人当たり360 gのゴミが海洋に流出していることになります。

## 静岡市全体で250トンが海洋に流出!?

静岡市の人口が70万人とすると、おおよそ250トンのゴミが巴川、安倍川から流れ出ている計算になります。すべてが水に溶けないプラスチック等のゴミとは言えませんが、マイクロプラスチックごみになっていることは間違いのないと言えます。この結果を基に、日本あるいは世界中の人口に当てはめて計算したら、川からどれだけのゴミが毎年海洋に流されているのでしょうか？ちょっと恐ろしくなります。

## 海洋汚染を防止するクリーン作戦の継続

河川を通じて海洋へゴミを流さないためにも、クリーン作戦の継続が必要です。

今後とも市民会議のクリーン作戦に息長く参加、協力をお願い致します。



地元の自治会、小中学校などから大勢参加



子どもの頃からクリーン作戦に参加して、ゴミを捨てない習慣を身につけよう

### 森林探検隊の開催

市民会議は、第1回森林探検隊を平成7年10月22日に、みどり情報局静岡（S-GIT）の主導により始め、その後雨による中止もありましたが、現在まで25回開催しました。

森林探検隊は、興津川流域の森林の中の急な山道を歩き、谷を渡り、探検しながら、現在の山の姿を見、林業の仕事などを楽しく学ぶことが出来ると、とても好評です。

### 第1次森林探検隊

第1次森林探検隊は、興津川上流域の清水森林公園やすらぎの森の中を約4時間掛けて巡るコースを設定し、11回開催しました。

参加者は森林公園出合いの広場に集合し、探検コースの説明を受けた後、森林公園の杉尾山展望台を目指して出発します。このコースの途中には、戸数11戸の貝伏集落を通りますが、ここは武田信玄の落ち武者の集落で、昔は「甲斐武士」と書いたとの事です。更に歩くと、山葵園があります。そして、スギ、ヒノキの植林地があり、手入れのされた森林と手入れのされていない森林との違いを学びました。そして、2時間ほど歩いて展望台に到着し、そこからの景観を楽しみながら、お弁当を食べます。

帰りは山を下りつつ、両河内の美味しいお茶を育む茶園、また、柔らかくて香りの良い竹の子のとれる竹林などを見ながらスタート地点に戻ってきます。このように探検しながら、清水区民の「命の水」を育む森林（森）について学びました。



森林の現状や整備方法などについて学びます

### 第2次森林探検隊

第2次森林探検隊は、興津川の中流域の大網地区の標高約300mの所にある「嶺の子山荘」を拠点として、平成20年からこれまで14回開催しました。

この嶺の子山荘は、元清水市（現清水区）の清水市消防団員で山好きな片瀬実さんが、昭和43年（1968）年に、青少年の野外活動の場として「子どもたちに森の中でのびのびと遊んでほしい」と自費で森林を整備されました。区域の大部分は、鳥獣保護区となっている森林に覆われていて、森林探検隊はこの中を探検して回ります。

### 森林探検隊の活動

森林探検隊は、最初に広場に集まり、探検コース、注意事項などの説明をします。そして、森林に詳しいインストラクターから、森の機能や森の中の季節の草花などについてレクチャーを受けて出発します。



森に住む動物たちのお話を聞きます

道路から脇にそれるとそこには谷川があり、探検隊は大きな岩をよじ登り上流に向かいます。そして、谷に架けられた1本の丸太の橋を綱の手すりを頼りに渡ります。すると急な山道があり、それを綱を頼りに登ります。尾根を越えて下りの道を暫く行くと谷があり、そこはロープスライダーで渡ります。このロープスライダーは、スピードがあり、大木の間を通り抜けるためスリルがあると子どもたちは大喜びです。



ロープを頼りに丸太の橋渡り



急な斜面も足下に気を付けて登ります



スリル満点のロープスライダーでの谷渡り

### スギ、ヒノキの伐倒見学

そして次は、森林の空を覆い暗くしているスギの木の間伐です。インストラクターがチェーンソーで木を倒す方向を決め、木の側面に三角の受け口を作り、次に反対側から追い口を切り、最後につるを切り離し、木をドドーンと倒します。すると空から明るい光が差し込みます。

参加者は切り倒した切り株の年輪を数えて木の年数を確認します。

最後に、山道を下り嶺の子山荘の中央広場に戻ります。



伐倒した木の年輪を数えて年数を確認します

### お昼は暖かいシシ鍋

探険隊が到着する頃までには、竈（かまど）で暖かいシシ鍋を作っていてくれます。

探険隊は、その暖かいシシ鍋汁をおかずに、美味しいお弁当をいただきます。



温かく、柔らかいシシ鍋汁はとても美味しいと好評

### 午後は自由に物づくり

午後は、山の中での自由活動時間です。広場内にある大きな木製のシーソーに乗って遊ぶ子や、弓矢や竹とんぼ、竹ポックリ作り、そして竹の花瓶づくりなどをして過ごします。

中には、大きなオノで木を割り、竈でたき火をするなど、普段、学校生活では出来ない体験をします。

### 探険隊の終了の頃には、みんなたくましく

最後に、全員が集合して1日を振り返り、感想などを聞くと「普段出来ない貴重な体験が出来、とても楽しかった」と喜びの報告をしてくれます。全員で集合写真を撮る頃にはみんなたくましくなっているように見えます。

### 市民会議の役割と活動紹介

市民会議は、学校や自然保全活動団体などから興津川の河川環境や環境保全活動について学ぶための講師の派遣、あるいはイベント時における展示、紹介などの依頼が多くありました。

### 学校への出前講座（総合的学習）

#### ・興津小学校、小島小学校

興津川流域の興津小学校及び小島小学校には、東海大学の永井彰先生、秋山信彦先生と望月事業委員長が出前講座に訪れました。そして、教室で興津川のアユやシロウオの特徴や生態について紹介するとともに、広い講堂において、長い鮎釣り竿を使ってアユの習性を利用した友釣りの仕組みや釣方を紹介しました。

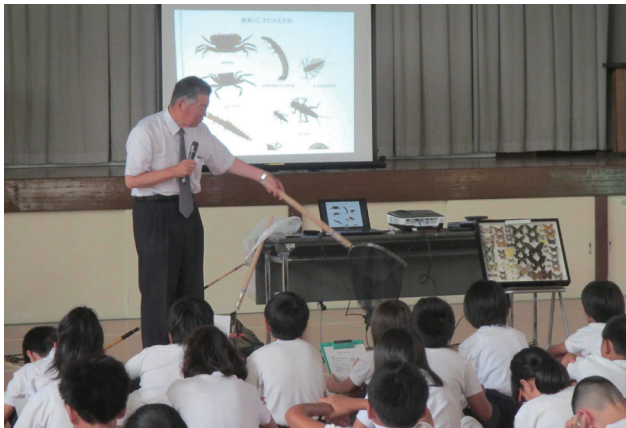
そして、興津小学校では興津川の河口近くの川に行き、生きているアユを使った友釣りを体験してもらいました。



望月事業委員長のアユの習性と友釣りの話

#### ・賤機中小学校での竹活用制作体験学習

安倍川に接した賤機中小学校では、荒廃竹林について研究していたことから、竹の活用の例として、奥寺事業委員が竹を使った弓矢の作成を望月事業委員が竹明かりを生徒と一緒に作成する体験をしてもらいました。



永井彰先生の川の生きものや蝶についての話



竹の弓矢づくり体験



秋山信彦先生のシロウオについての話



竹明かりの作品

## サイエンスピクニック

毎年、静岡科学館「る・く・る」では、自然に関する研究を行っている学校、団体、企業などが集まり、その活動を紹介する「サイエンスピクニック」イベントが開催されており、市民会議も参加、出展してきました。ここでは、パネルで市民会議の活動紹介を行うとともに、訪れた方に、山にある材料を使っての工作を楽しんでいただきました。

市民会議の出展内容は、竹をノコギリやナタを使って作る花瓶づくりや木を使ったマグネットづくりです。竹細工では、親子でノコギリを使って切断してもらい、簡単なペン立てやちょっと複雑な花瓶づくりをしました。マグネットづくりは、土台となるリョウブやナツツバキを輪切りにして、そこに様々な顔を描いてもらいました。参加者それぞれの個性あるマグネットが出来てとても楽しいです。



マグネットづくりの方法を指導をします



自然の木を遣ったマグネットづくりの作品

## イベントへの出展依頼

自然環境をテーマとした夏の駿府公園や秋の静岡ガスなどのイベントにも出展依頼があり、積極的に参加をしています。

そのような機会には、興津川の自然環境や水道水源としての役割及び保全活動の様子を紹介するパネル展示を行い興津川に対する理解を深めました。

また、訪れた方には「やませみ通信」の配布を行うとともに、その時に企画している事業のパフレットを紹介し、市民会議への活動参加の呼びかけを行ってきました。そのおかげで、興味を持たれた方がイベントに参加してくれ、会員にもなっていました。



みんなでいろいろ工夫してマグネットづくり



ノコギリを使い、竹を切って花瓶を作りました

### 各種団体、企業参加による保全活動

市民会議の発足当初から、環境保全活動は静岡市内の多くの団体、企業の参加協力により進めてきました。

### 興津川保全基金への企業・団体の協力

旧清水市において興津川的环境を守るための活動資金として、「興津川保全基金条令」を定め基金の募集をしてきました。

この条令に基づき、市の担当部署と市民会議では、各自治会や公民館、人が集まる施設を訪れるなどして、全市民を対象とした募金活動を進めてきました。

そうした中で、市内の企業及び関係団体から大口の募金をいただき、市の拠出金を含め現在、2億5千2百万円の基金が集まっています。市民会議の活動もこの基金の運用による支援を受けて活動を続けてきました。



七夕祭り等のイベント会場での募金と啓発活動

### 興津川クリーン作戦への参加、協力

現在では、毎年恒例となっている「興津川クリーン作戦」は「興津川保全市民会議」の主催により、静岡市が誇る清流・興津川の水環境の保全と素晴らしい自然景観を守るため、市民会議会員をはじめとして企業、関係団体、流域の小中学校、行政等が協働して平成6年度から継続して開催してきました。

クリーン作戦は、コロナ感染防止のために休止した期間を除き、毎年1,000人から1,300人の参加を得て実施してきました。

### 静岡市環境保全推進協会の参加について

興津川クリーン作戦には、当初から静岡市環境保全推進協会の多数の参加、協力をいただいています。

ここでは、市民会議の情報誌「やませみ通信」の第28号（平成18年33月発行）の記事から、協会の参加企業及び参加者数一覧表を紹介させていただきます。この日の参加企業数32社、総参加数596名でした。これは、クリーン作戦参加者数の約半数を占めていることになり、大きな力となっています。



市内の企業・団体が集まりクリーン作戦を展開

中でも（株）清水銀行は300名の参加があり、毎年の恒例行事となっていると聞いています。

なお、参考として、その当時の3年間の参加者数とゴミ回収量の比較表がありますので、掲載します。これにより、参加者数、回収量が共に大きく変化をしていないことが分かり、今後ともクリーン作戦の必要なことが分かります。

今後とも、企業団体等の参加をいただき、継続して行きたいと考えています。

年度	参加者(人)	ゴミ回収量 (kg)
平成16年度	約1,300名	2,380 kg
平成17年度	約1,200名	1,360 kg
平成18年度	約1,200名	1,360 kg

毎年多くの参加者によりゴミを回収してきました

## 興津川クリーン作戦 参加者名簿

平成18年9月9日（土）

参加された静岡市環境保全推進協力会の企業の方々（敬称略）

NO	企 業 名	参加人数	活 動 エ リ ア
1	一紅産業(株)	3名	土キャンプ適地
2	合同酒精(株) 清水工場	10名	河口
3	(株)合同物流	3名	土キャンプ適地
4	静岡ガス(株) 清水支店	10名	河口
5	静岡ジェイエイフーズ(株) 庵原工場	3名	土キャンプ適地
6	静岡ジェイエイフーズ(株) 興津工場	5名	河口
7	清水エル・エヌ・ジー(株)	5名	八幡橋・白扇閣
8	(株)清水銀行	300名	茂野島
9	清水港飼料(株) 清水工場	4名	土キャンプ適地
10	清水乳業(株)	1名	土キャンプ適地
11	清水農業協同組合(JA清水)	74名	西里キャンプ適地
12	鈴与(株)	20名	河口
13	スター精密(株)	15名	土キャンプ適地
14	高砂熱学工業(株) 静岡営業所	3名	八幡橋・白扇閣
15	中部電力(株) 静岡営業所	4名	土キャンプ適地
16	東ブ(株)	3名	茂野島
17	(株)巴川製紙所	11名	八幡橋・白扇閣
18	日軽物流(株) 清水支店	1名	土キャンプ適地
19	日星工業(株)	50名	土キャンプ適地
20	日本エンバイロケミカルズ(株)	5名	土キャンプ適地
21	日本ケミカル工業(株)	2名	土キャンプ適地
22	(株)日本テクノ	7名	土キャンプ適地
23	(株)ノダ 清水事業所	2名	土キャンプ適地
24	はごろもフーズ(株)	6名	河口
25	フジ日本精糖(株) 清水工場	3名	土キャンプ適地
26	ポーラ化成工業(株) 静岡工場	17名	土キャンプ適地
27	三井化学ポリウレタン(株) 清水工場	3名	土キャンプ適地
28	望月燃料(株)	1名	土キャンプ適地
29	(株)ヤクルト本社 静岡工場	1名	土キャンプ適地
30	ヤマダユニア(株)	4名	和田島キャンプ適地
31	ヤヨイ食品(株)	15名	八幡橋・白扇閣
32	立華工業(株)清水支店	5名	土キャンプ適地
	合 計	596名	

資料：やませみ通信 NO.28号：平成18年3月発行より

### 視察研修事業

市民会議は、山と川に関する保全活動の質を高め、その時代に求められる活動を適切に行うため、視察研修事業を実施しています。

視察研修により、様々な先進的な取組を見聞し、森林や河川に対する造詣を深めるとともに、それらを生かした活動を企画し、参加者に伝えられるよう取り組んでいます。

### ■河川に関する視察

河川に関する視察研修は、天竜川水系の愛宕川水辺の里づくり連絡会との視察・交流研修、滋賀県立『琵琶湖博物館』、岐阜県川島町建設省『自然共生研究センター』、などを始め先進的に取り組んでいる河川及び施設などを視察しました。

#### ●「愛知県矢作川の視察研修」

##### ・水道水1トン1円の基金条例

河川に関する視察として、最初に訪れたのは、平成7年11月17日の愛知県豊田市役所水道局でした。目的は、1級河川矢作川の流域は28市町に及ぶ水道水源となっており、その水源地域の環境を守るための資金として「水道水1tに対して水道料金1円を上乗せする『豊田市水道水源保全基金』を全国で初めて創設した」ことを知ったからです。その運用として上流域の水源涵養林を育成すること、負担金に対する市民の反対はなかったことなどを聞きました。興津川も同様に「興津川保全基金条例」を創設していることから、とても参考になりました。

##### ・より良い河川環境を研究する矢作川研究所

矢作川には7つのダムがあり、アユの川としての環境が悪化していることを憂慮して調査研究を行うと同時に、河岸をコンクリートで固めない近自然工法を取り入れた両岸（ふっそ）プロジェクトなどの取組について学習しました。また、生物の多様性を目指した「稚児の口公園」も視察しました。



矢作川の特徴についての説明を受ける



近自然工法を取り入れた両岸（ふっそ）

#### 「三分一（さんぶいち）湧水」

山梨県北杜市長坂町にある三分一湧水は、日本名水百選に選出された八ヶ岳南麓高原湧水群の中にあります。「江戸時代に湧水口の分水升に三角石柱の利水施設を造り、貴重な湧水を三方向の村に公平に分配した施設です。昔から水は命そのもので先人の知恵のシンボルです」との説明を受け、水を大切にする心を学びました。



江戸時代に湧水を公平に分水した施設

## ■山に関する視察研修

### ●「神奈川県東丹沢県民の森」植林活動

山に関する視察研修は、平成10年11月13日の神奈川県東丹沢県民の森が最初でした。手入れがされていない荒れた森林と手入れが行き届いた森林との比較や、近々植樹祭が行われるという会場の準備の様子とともに、野生の鹿に植えた苗木を食べられないようにフェンスを設置するなどを行い、大変苦勞しているとのことでした。また、神奈川県の職員から、神奈川県民の水道水源である丹沢地区の森林の環境を守るための『水源の森づくり』事業をスタートさせ、その資金づくりとして「森林オーナー制度」等を推進しているとのことでした。

### ●企業が管理する「トヨタの森」

平成16年11月に企業が維持管理する森づくりの先進地として、愛知県豊田市のトヨタ自動車が管理する40haの「トヨタの森」を訪れました。この中にある「里山学習館・エコの森ハウス」で、人の手の入り具合により「整備、保全、活用ゾーン」に区分されて、様々な試みが行われているとの説明を聞きました。その後、森のインストラクターの案内で「里山づくり」について説明を受け、森の中を見学しました。



インストラクターによる里山づくりの説明

### ●東京大学「赤津演習林、富士演習林」

平成21年11月27日に、東京大学の演習林の1つである愛知県の「赤津研究林」を訪ねました。ここは、焼き物を焼く木を切るために「はげ山」となった山を80年の年月を掛けて緑化を行うとともに、その山林の成長に伴う雨水の流出量等を調査・研究していることを学びました。

また、東京大学の山中湖の「富士演習林」を訪問し、森林の中を散策しながら森の役割の話や地域との協働について学びました。



雨水の流出量等を調査する貯水池の見学



東大赤津研究林内の焼き物の登り窯施設



視察参加者集合写真

## ■近年の視察状況について

興津川保全市民会議 事務局員 西野 真理恵

ここ数年で実施しました視察研修の様子を紹介します。

### ●明治神宮の森

私が事務局員として初めて訪れた先は、“明治神宮の森”でした。東京農業大学教授の濱野 周泰氏を講師に迎え、私たちは森の中をゆっくり散策しながら多くのことを教えて頂きました。

“明治神宮の森”の生態系調査の責任者でもある濱野氏のお話を聞きながらの散策は、大変貴重な経験となりました。



東京農業大学の濱野先生による解説を真剣に聞く

東京の中心部にありながら様々な動植物が暮らし、世代交代が自然の力のみによって繰り返されているのです。およそ100年前に始められたこの森づくりが、人工の森の最高傑作のひとつと言われる所以が自ずと感じられます。

東京に数年住んでいた私も初めて足を踏み入れた森。研修で聞いた話を思い出しながら、今一度散策しに行きたいと思っています。

### ●八ヶ岳美しの森

翌年の研修は、環境省自然公園指導員の伏見勝氏に同行を依頼し、八ヶ岳南麓に広がる森林“八ヶ岳の森”を視察しました。標高や風の影響で気候がころころと変わり、山岳地帯らしい空気に触れることができました。赤岳の東尾根の一部が孤立してできた美し森の展望台からは南アルプスの山々を望むことができました。高山植物が豊富な八ヶ岳の視察は、植物に関心のある参加者にとっても好評でした。



八ヶ岳美しの森のトレッキングにより自然を学ぶ

### ●富士癒しの森研究所

世界を襲った新型コロナウイルスの影響でここ数年間は研修を実施することができない年が続きました。

令和6年度ようやく県外への研修を再開することができた私たちは、山梨県山中湖村にあります“富士癒しの森研究所”を視察しました。東京大学の演習林で、森林整備の実態と森林の持つ保健休養機能について学びました。私たちが市民の森づくりで実践を試みようとしていることに参考となる活動を沢山されていたため、参加者からの質問も多く、時間が足りなかったほどです。この研修で得たことは少しずつですが、私たちの活動フィールドでアウトプットするようにしています。



癒やしの森は来訪者に開放されている



視察参加者の集合写真

団体として成長するための視察を行い、多くの事例を見聞き、視野を広げることはとても大事なことだと思っています。市民会議の事業内容の充実を図るため、今後も色々なところへの視察を考えています。

### 「長良川流域環境ネットワーク協議会」

市民会議では、他都市の河川で市民と行政が協働し、保全及び活用に積極的に取り組んでいる団体との情報交換や訪問により交流を行って来ました。

平成23年には「岐阜市・静岡市清流保全交流事業」として、岐阜市の「長良川流域環境ネットワーク協議会」を訪れ情報交換を行いました。当会では、長良川らしく『鮎の再生』『伊勢湾にゴミを流さない』などのスローガンを掲げて活動をされていました。



長良川の流域環境ネットワークとの意見交換

### ●横浜港「夢ワカメ・ワークショップ」

平成25年11月に神奈川県横浜港の横浜臨海パークにて開催された「夢ワカメ・ワークショップ」の視察研修と交流を行いました。

ここでは、11月に臨海パークにおいてロープに小さなワカメを挟み込み種付けを行い筏にくくりつけました。そして次の年の3月にその収穫に訪れたのですが、見事に大きく育っていて参加者全員沢山のワカメを持ち帰りました。

#### ワークショップの目的

このワークショップの趣旨は、東京湾の栄養過多となっている栄養塩をワカメに吸収させ水質浄化を図ろうということと、育てたワカメのミネラルのヨードをタイ・ミャンマーの山岳地帯に住む子どもたちに届けて、病気予防に繋げようということでした。

参加した布施さん親子はタイで生活をしている経験があり、そのタイにワカメを届けるということに不思議な縁を感じている様子でした。



第1回目にロープに植え付けた小さなワカメ



2度目に訪問し大きく育ったワカメの収穫



布施さん親子はワカメの収穫体験をしました。

両河内地区連合自治会長 中山 治己

自治会は市民会議発足以来、募金活動、興津川クリーン作戦など積極的に協力をしてきました。

ここでは、昔から興津川と地域住民の繋がりは深かったことの1つとして「茂野島の川施餓鬼」を紹介します。

### 「茂野島の川施餓鬼」の歴史

茂野島地区では毎年お盆の8月16日の晩に川施餓鬼が行われる。これは安政元年11月のいわゆる安政の大地震（1854年）とそれに続く安政2年7月の豪雨にみまわれた両河内では人家の流出、行方不明死が多く発生したため、人心が収まらなかったのを鎮めるために始まったと伝えられている。

歴史は古く、170年続いている事になる。

### 「川施餓鬼」の当日の様子

地区の住民たちは早朝から施餓鬼の場所を整備し、たきぎや廃材などを地区の家々から集め、所定の位置に積み上げる。お人形とかお札とかも施餓鬼に供する人たちもいる。

その後、積み上げられた巨大たきぎの山（巨大たいまつ）の四方に孟宗竹を立て、経文を書いた短冊札を結び付けた縄で周囲をかこう。また篠竹で経台を作り、地区の臨済宗僧侶がお経を読み、かつての犠牲者の霊を弔ったのちたいまつに点火される。

火が大きく燃えあがると四方の竹、お札、経台もすべて投入される。

やがてすべてが燃え終わると施餓鬼が静かに終わる。



川施餓鬼のもよう

## (2) 興津川非出資漁業協同組合

興津川非出資漁業協同組合

漁協代表理事組合長 前澤 元次

興津川保全市民会議の30年の活動を記念しお祝い申し上げます。

興津川漁協では「水の綺麗な魚影の濃い興津川」を目指し活動しております。興津川保全市民会議の「興津川の美しい水、周辺の豊かな自然を守る」というコンセプトに対応した活動を、市民会議の設立当初より深く関わり協力してきました。

市民会議のいろいろな活動や行事を通じ、多くの子供達や市民の皆様と興津川の素晴らしい

自然環境を肌で感じ、大切に守って行かなければとの思いを共感しております。

川の一斉清掃、稚鮎の放流、川の生き物観察、鮎の友釣り体験、鮎の塩焼き試食など市民会議と共に活動し、参加した子供達や市民の皆様と、興津川の素晴らしい自然環境から受ける癒しや体験を共有し、後世に伝えるべく自然環境保全に務めてまいります。

興津川漁業協働組合は市民会議の一員として、今後とも「水の綺麗な魚影の濃い興津川」を目指し活動してまいります。



元気に育て、アユの放流体験



鮎釣教室の講師役を終えて、清流の興津川を見ながら美味しいお弁当を食べてホッと一休み

### (3) しみず女性の会

しみず女性の会会長 佐藤 京子

しみず女性の会として、興津川保全市民会議に発足当初から参加してきました。清水市民の生命の源というべき水道水源である興津川の水を守る活動を大切にして、市民会議に関わりつづけてきました。

当初は興津川保全基金の募集活動や旧清水市内各地で行われるイベント会場での啓発活動・興津川クリーン作戦等への参加・協力であったように記憶しています。

近年では、4月の市民の森づくりの「竹の子汁」、7月の市民の森づくりでの「焼きそば」、「鮎釣り教室」での「鮎の塩焼き」、8月の「川のセミナー」での「流しソーメン」、11月の「森林探検隊」での「しし鍋」づくりなど、美味しい地元の食の提供係を担っています。

市民の皆様が市民会議の活動に楽しく参加をし、興津川や森林の保全活動に汗を流して来た参加者の皆さんを元気づけられるよう、微力な

がらお手伝いをさせていただいています。

参加者の皆さんに「おいしかったよ」と言って喜んでいただけることが、活動の励みになっています。

これまで、当会の中心となって、長い間、私たちの活動を引っ張ってこられた（故）塚口満智子さんの味をしっかりと引き継いでいます。そして、これから活動に参加する人達に繋げていきたいと思っています。



いつも、大人気の流しソーメン



前会長の（故）塚口満智子さん（左）と共に、市民会議の活動の“お楽しみづくり”を担ってきました。

## (4) みどり情報局静岡 (S-GIT)

みどり情報局静岡 (S-GIT) 白井 久男

私はみどり情報局静岡 (S-GIT) の一員として市民会議の「市民の森づくり」や「森林探検隊」の実践作業の協力をしてきました。

S-GIT の会員は山林作業が本業の方や一般の方でチェーンソーの適正な取り扱いを学び、安全な山仕事を行なうと共に指導者になりたいと集まったボランティアの会です。

### 市民の森づくり支援

市民会議の市民の森づくり活動では、主に山で使う鉋 (ナタ) や鎌 (カマ) の取り扱いや植林の指導を行いました。

第1次の森づくりの場所は西里地区の貝伏集落から、狭く、急峻な山道を50分ほど登ったところにありました。森づくりの最初の作業は“地ごしらえ”です。スギ・ヒノキ・ヤマザクラ等の苗木を植えるために、今まで生えていた灌木や草木を刈払い、植林の下準備作業をしました。“植林”はそこに植える苗を背負子で担ぎ上げ、イベント参加者と一緒に植え付けました。大変な作業は夏の“下草刈り”です。暑さを避けるためS-GITが日の出と共に出発し、イベント参加者が山へ到着前にススキの刈払いを大方終えておきます。参加者は自分の体力に合わせて草刈りをします。私は子育て中で、3歳になる娘を背負って登ったことが今では良い思い出です。

### 山仕事の大変さと楽しさを知ってもらう

山仕事は大変でも植林作業が終わった後は、イベント参加者もスタッフも山の自然を感じて、気持ちのいい疲労感と充実感を味わいました。また、参加者には、植えた木に対するシカ、イノシシなどの食害など大変さとともに、豊かな山で採れる竹の子や山芋、こんにゃく、野草などの山の恵みについて学んでいただきました。

山や川の保全是手間や時間もかかり、思い通りにならないことが多いです。しかし、そこには日常にはない思わぬ発見や喜びがあります。

市民会議の市民の森づくりが、イベントに参加する人が主体となり活動することにより、その人の生活に豊かさと未来を切り開く糧となることを願っています。



下草刈りのカマの研ぎ方を説明する (山崎前会長)



得意な竹とんぼづくりを子ども達と (糠谷前会長)



山の仕事や自然についての森林教室 (石垣前会長)



白井によるこんにゃくいもから蒟蒻を作る方法を説明

興津川保全市民会議・事業委員長

望月 誠一郎

### 市民会議の執行部隊の事業委員会

旧清水市が市民の水道水源である興津川流域に乱立したゴルフ場計画に対し水質保全対策のため「興津川保全条例」を定め、それを行政と、市民（自治会）、企業、各種団体が協働して守る組織をつくり、活動することを決めました。

そして組織体制として、商工会議所及び自治会をはじめとした関係機関の代表者で委員会を組織し、その執行部隊として興津川を守る活動に積極的に参加できる人達が選抜され事業委員会が設けられました。

その事業委員の1人として参加した私は、興津川流域の小島地区出身で、幼い頃から興津川で遊び回り、親子三代で鮎釣りをして育ったため、事業委員長を任されました。

私は興津川で遊ぶことが大好きです。この川と山の環境を守るのは私に与えられた使命だと考え、市民会議の発足以来これまでの30年間、事業委員長として企画、運営してきました。

その市民会議の活動の様子は、令和6年の3月発行で46号となった『やませみ通信』で紹介してきました。

### 保全活動は「有意義でかつ楽しく取り組む」

事業委員会は毎月1回の定例会を開催し、次の事業の進め方を決め、準備をして実施してきました。

この活動を30年間続けられたのは、『興津川の水を清らかに保つ』という意義と、事業委員と参加者の皆さん、そして支援していただいている行政の皆さんなどと気持ち良く、そして楽しく活動できたからだと考えています。

### 事業委員は得意分野を提案、担当して実施

事業委員会の委員はとても積極的に取り組む人達です。それぞれ川や山に関する得意分野があり、それを生かした企画を提案してくれました。そして、提案者が中心になり事前の準備から当日の運営までを主体的に行い、それを他の委員がアシストするという体制で運営してきました。



事業委員の提案で、みんなで創った竈（かまど）



事業サポーターは、話し合いにより作業を行う

### 企業・事業者の支援、協力

市民会議の活動は事業委員会が中心となり実施する企画のみでなく、募金活動やクリーン作戦など多くの方の協力を得て実施してきました。

特に9月に行うクリーン作戦は、興津川沿線の地元自治会、学校、漁業組合の他、市内の企業、団体から毎年1,000人以上の参加者があり、10会場に分かれてゴミの収集を行ってきました。

特に、静岡市環境保全推進協力会の方は、団体として毎年500～600名の参加をいただいております。感謝するとともに今後も支援をよろしくお願いします。



## 親子で参加し、たくましく成長

興津川での活動は、興津川の流域の川と山をフィールドとしていろいろな事業を実施してきました。その事業に対する感想や提案は、参加者から「やませみ通信」に投稿をいただき紹介させていただきました。その中から、親子で1年間あるいは数年間参加していただいた家族もあり、抜粋して紹介させていただきます。

小早川親子は、いつも4人仲良く興津川の源流を訪ねるエコレンジャーや第1期の市民の森づくり、そして、S-GIT主催のチェーンソーワークなどの体験をしました。そして、平成14年10月26日に行われた静岡川自慢大賞に参加して、審査員特別賞を受賞しました。



小早川親子は、いつも一緒に活動に参加協力

布施さん親子は、タイ・バンコクで都会生活をして自然に触れ合うことがなかったため、自然体験をさせたいと市民会議の活動に参加をされました。そして、年間を通じて参加をする中で、シシ鍋なんて食べられなかった子が、1年後にはもっと食べたいというようになったとレポートしてくれました。また、横浜港で行われた夢ワカメ・ワークショップにも参加され、タイ・ミャンマーへ届ける活動にも参加しました。

また増田さん親子は、親が自然大好きで子どもたちと一緒に連れてきて、自分が楽しみながら活動すると子ども達も自然好きな子に成長してくれたとレポートしてくれました。

その他にも、柳澤親子、松浦親子など自然大好きな家族がおり、全員の紹介が出来ません。



お母さんが自然が好きで参加した増田さん親子

## 事務局員及び市担当者の協力に感謝

旧清水市の当初から現在まで、市民会議は市民と行政が協働して運営するという考えのもと、お互いの立場、役割を踏まえ、常に前向きに議論し、協力してきました。

また、会の運営準備や連絡など縁の下の力持ち役を担ってくれた事務局員にも感謝します。発足当初は、名前も市民会議の事務局にぴったりの高野緑さんがいろいろな準備や連絡等を担っていただきました。

現在は、家族全員で市民会議に参加・協力をしていただいている西野真理恵さんが、市民会議の情報発信、連絡調整、各種イベント準備と運営に活躍してくれています。



初期の事務局員高野さんを始め活動支援に感謝

## 片瀬 実さんと嶺の子山荘を建設

私は興津川保全市民会議の活動 30 年を振り返る時、50 数年前に片瀬実さんと嶺の子山荘を建設した当時の様子を思い出します。

片瀬さんは清水山岳会の先輩で、当時、旧清水市の消防署に勤めており、定年を控え、退職後の人生をどのように過ごすか考えていました。

昭和 43 年の春、片瀬さんから私に呼び出しの電話がありました。話しかねてより彼が探していた湧き水の水源がある杉と檜の山林 3 ha 程を、興津川の上流域の両河内村葛沢の大網部落を少し登った所に見つけ、買ったという連絡でした。

### 手作りの山小屋建設

そして、私たち若い山岳会員が山小屋の建設に協力することになった。建設が始まると、休日に各自登り口に集まり、建物の材料を運んだり造成工事の手伝いをした。小屋の規模は 20 坪の高床で、屋根はトタンの波板葺で、囲炉裏の上は煙抜けを付けた。壁や羽目板は、間伐した杉や檜の材料を使い、窓は古い学校から外してきた木製の建具で、床は板張りで仕上げ、その中に円形と長方形の 2 つの囲炉裏を設けた。

### 山小屋の名前は「嶺の子山荘」

山小屋は 9 月上旬に完成した。秋の満月の頃、片瀬さんの山小屋に山岳会の仲間が集まり宴会を開いた。その席で、「嶺の子山荘」と名付けられ、この地を興津川の清流を育む山林を保全し、青少年が山の自然と親しみ、たくましく育つ活動拠点とする事を決めた。



みんなで協力して建設した山小屋、嶺の子山荘



嶺の子山荘の中の大きな囲炉裏で焚き火を楽しむ

### 嶺の子山荘の活用、継続

それからは、春は竹の子掘りを行い、夏は冷たい清流に竹樋いを掛けてそうめんを流したり、寒くなると囲炉裏で焚火を炊き、山の唄を歌って楽しんだ。その後は、地元の森林組合の青年部を中心として結成された「みどり情報局静岡 (S-GIT)」の力を借りて、市民会議が企画する苗木の植樹から下草刈り、枝打ち、チェーンソーを使った伐採等の育林方法を学ぶ森づくり活動や山の自然の中を駆け巡る森林探険隊などの基地として活用してきた。



いつも静かに笑顔で活動していた（故）片瀬実さん（中央でお弁当を食べている）

### 嶺の子山荘の有効活用を

私は清水山岳会の会員として、また市民会議の事業委員として、嶺の子山荘を建設した片瀬さんの意志を継ぎ、今後も興津川の水を育む森林を守り、子どもたちに自然の中で過ごす楽しみの場として嶺の子山荘が活用されることを願っています。

事業委員 池田 俊美

## 四季折々の保全活動継続の大切さ

「清水市民の大切な飲料水を守る」興津川の保全活動に参加して約30年。官民一体、企業の皆さま、大学の先生方など数多くの人の協力で市民会議が成り立っています。

アユは「香鮎（こうぎょ）」と呼ばれています。美味しいアユは、水質の良い川を示す指標の1つです。「命の水、興津川に生息する美味しい鮎」が水質の良さを証明してくれています。

春の植林から始まり、冬の嶺の子山荘周辺整備など、一年を通した活動を頑張っていますが、その中でも人気が高いのは、「鮎釣り」と川遊び教室です。その釣り方も仕掛けも独特です。おとりになる「鮎」に仕掛け針を付け、縄張りを持つ天然鮎に近づけ、体当たりしてくる鮎を針に掛けて釣る「友釣り」という手法を使います。

また、興津川保全の活動のひとつとして、一年に一度大規模な清掃活動をしています。この30年間にゴミの量は大幅に減りました。川を利用する人たちのマナー向上や興津川非出資漁業協同組合その他の関係者の啓発活動の結果といえるでしょう。

台風15号により水道施設が被害を受け、当たりまえに蛇口をひねれば出てきた水、飲料水が止まり、水道の大切さを思い知らされました。

これからも市民会議の事業委員、参加者の皆さんと試行錯誤しながら興津川の保全活動が消滅することなく継続していきたいです。



参加者と一緒に鮎を釣り上げた

興津川非出資漁業協同組合 副組合長

事業委員 小林 洋二

## 興津川漁協は市民会議のパートナー

興津川漁協の収入は、遊漁券収入が中心です。人口減少以上に釣り人の減少は、漁協運営を厳しい状況に追い込んでいます。

私達漁協は、釣り人を増やすためには底辺の拡大が重要だと考え地域の学校行事等への協力を中心に活動して来ました。しかし、もっと幅広い活動が必要なることを感じたのが、市民会議との関わりでした。今後も市民会議と共に活動し、成長出来れば良いなと思っています。

昔は、お父さんが子供たちと川や山で遊ぶ時に動植物の名前や遊び方、危険なことやルールを教えていました。しかし、現代では、そのお父さんがルールを教わっていない現状ですので、川や山の自然の中で子どもたちが自由に動きまわり、色々な事を学ぶことの出来る市民会議及び漁協の役割は重要となっています。

興津川漁協は、市民会議の一参加者で無く、力強いパートナーであると考えています。



大網地区での鮎の放流体験日に講師を紹介



興津川に放流する稚アユについて解説

## (2) 市民会議会員と事業サポート委員

個人会員 佐藤 充

### 市民会議との出会いは「るくる」

私は東京在住ですが、青森県の八戸育ち、幼少の頃より竹の子掘り、潮干狩り、ちょっと変わったところでは化石掘り等自然の中で遊ぶのが当たり前の環境で育ってきました。

都心では、外で遊ぶと怪我をするからと外で遊ばない子供が多く、私の子供も家でゲームをするのが大好きな子供に育ちました。

子供に自然と触れ合う機会を探していた時に、静岡科学館「るくる」で植樹体験と竹の子狩りがセットになった活動を知り、大変魅力的で、直ぐ参加の申し込みをしました。

### 嶺の子山荘への登り坂

駐車場から峰の子山荘へは急な登り坂です。最初は、普段車でしか移動しない私には非常に苦しい道のりでしたが、徐々に、先に楽しいイベントが待っている！来週は山登りがあるから、今週は少し節制しよう！と健康管理を気にするように私の意識が変わっていきました。

その急な登り坂の途中にある砂防ダムについて事業委員長が説明してくれました。それに関心を持った娘がうなづき真剣に聞いていました。都会にない砂防ダムや自然の話が普通に受け入れている娘にも成長を感じています。

### 参加回数を重ねる度に子供が成長！

はじめて参加した時は子供が小学生の低学年でした。親の私たちは、沢登り、水鉄砲作り、竹の弓矢作り、ジャンボシーソーに乗る時など常に自分の子供のフォローを中心に行動していました。しかし、数年通い続ける内に娘に友達が出来て、親がいなくても自分から行動出来るようになってきました。竹の子を釜で茹でるのを手伝ったり、仲間を集めて森の中で秘密基地を作ったり、シーソーでは年下の子供の面倒を見るなど、年々成長しているなど感じました。

いい環境を与えてくれた興津川保全市民会議に感謝です。

### 単なる参加者から、運営のお手伝いも！

今年で参加6年目、子供は中学生になり手に掛からなくなり、私と市民会議のイベントと

のかかわり方が変わってきました。

今後の私の目標は、アユを釣る事、竹の子を沢山掘る事など、子供が参加しなくてもこれまで通り夫婦で自然を楽しめればと考えています。また、最近は運営側のお手伝いが出来ればと積極的に裏方の仕事に参加しています。

### 参加者同士が助け、学び、教え合う

市民会議の良いところは子供からお年寄りまでバランス良く助け合い、学び合い、教え合っているところだと思っています。また、子供の成長に合わせた関わり合い方で色々な楽しみ方が有ると思っています。これからは私も、年齢や経験を重ね、健康にも注意して、参加者のお子さんに水鉄砲の作り方を教え、一緒に鮎を放流し、竹の子を探す手伝いをしたりして、楽しみたいと思います。

### 今後も素敵なイベントを続けてください

運営の方は、参加者の人数も増え、自然の天候にも左右されるなど、ご苦労が絶えないとは思いますがいつも楽しみにしていますので、これからもこの素敵なイベントを続けて頂ければと思います。



東京から家族で駆けつけ、植林活動体験

有限会社ウイスト 代表 半藤 輝夫

事業サポート委員 (S-GIT) 橋本 勝治

興津川保全市民会議 30 周年誠にありがとうございます。

私は「鮎釣り」と川遊びの鮎釣りの講師として、鮎釣り名人の仲間達と参加しています。

鮎竿や用品の販売を生業としている者として河川環境の変化には大変関心があります。長く鮎釣りを楽しんできた方々は川の変化を嘆きます。以前は大きな石が点在し、魚やそこに生息する生き物も数多くいました。護岸工事が進み水害等の被害が減る一方で、生き物たちには住みにくい環境となりました。異常気象が多発する昨今、人命を守りつつ昔ながらの自然の川を維持するのは困難な事ですが、市民会議の皆様は活動は多くの方がこの現状を知り解決策を探る際に一石を投じる有意義な取り組みだと思いません。必ず自然への感謝と河川の保全に繋がる事でしょう。

興津川保全市民会議の益々のご発展をお祈りいたします。



鮎釣り場へ参加者とともに移動します



鮎釣りの指導をします

## S-GIT と市民会議との協力関係について

清水区民の飲料水は興津川に頼っています。30 数年前その興津川の水量が減少し、市民は節水の取組などで大変困難な状況となりました。

興津川は田代峠の源流から駿河湾まで総延長 27 km で市民の重要な水がめとなっています。こうした中で、山林の荒廃が進む興津川水系の水源涵養能力を高めていこうと S-GIT (平成 4 年 3 月 2 日) が誕生し、ボランティア団体として山林の間伐事業や間伐に関わる技術向上などに取組み、特に自然環境の保護 (水源涵養林の整備、きれいな飲料水の確保、林業振興) を目的とした諸活動に取り組んできました。

この活動は市民会議の活動目標と同様であることから、市民会議の各種活動に積極的に協力していくこととしました。私は、市民の森づくり事業、嶺の子山荘付近で行う森林教室・森林探検隊・タケノコ狩りなど食を通じて、楽しい活動を支援することで協力しています。

発足から 30 年余の S-GIT も高齢化と後継者不足のため 2023 年に解散しましたが、市民会議の活動には引き続き協力したいと思っています。興津川の水源能力を高め、山林に関心をもって頂くため市民会議の発展を期待します。



たっぷりイノシシ肉の入ったシシ鍋作り

## 「ずっと続けたい」

30周年おめでとうございます。

会員になり数年が経ちました。親子で、森の中のターザンロープ、たけのこ掘り、アユの放流や釣り、川の生き物観察会、バームクーヘン作り、嶺の子山荘の復旧作業など、本当にたくさんのイベントに参加させてもらいました。「自分でやってみたい」ことがたくさんあり、体験して、感じて、考えて、活動を通してたくさんの学びがありました。

一緒に活動を始めた子どもも大きくなり、今では私一人でお手伝い参加しています。この活動が楽しいのと、それをサポートできたら良いなという思いでいます。現在、活動から足が遠のいている会員さん達も、大きくなった子ども達も、またフラッと舞い戻れる場所でありたいと思います。そして、一緒にこの素敵な活動をずっと続けていける事を願います。



親子で山の料理作りは楽しいひととき



自分で作った料理を山の自然の中で食べると美味しい

## 家族で汗を流して活動参加

妻の事務局勤務をきっかけに、市民会議の活動に参加し始めて7年。当時は幼稚園・小学生低学年だった子どもたちも、同会議の歴史とともに年輪を刻み、大人と同じ背丈の程まで成長しました。

今では自然の中で遊ぶだけでなく、「森は緑のダム」として興津川を支える存在であることを理解するようになってきました。私自身も台風で荒れた森を鎌やチェーンソーで整備する作業に没頭するようになり、汗を流しながら自然と向き合う喜びを感じています。

この活動を通じて家族全員が環境保全の大切さを学び、自然への感謝の気持ちが深まりました。これからも多くの人々と共に、興津川の美しい自然を守る活動が続いていくことを願っています。



参加し始めの頃の子供達は幼稚園児と小学生



広場に設置した丸太のベンチづくり

### 彩り豊かな紅葉樹の森にしたい

私は嶺の子山荘を、色とりどりの紅葉樹で溢れる活気のある森にしていきたいです。スギやヒノキだけの森は暗く、草も少なく、寂しく感じてしまいます。

活気のある森にするために、クヌギを植えてカブトムシや様々な昆虫が集まる場所を作り、同時に秋にはどんぐり拾いなどが楽しめる場所にもしたいです。

他にもエノキを植えてオオムラサキやタマムシの生息地を作りたいです。

また、ツツジを植えアゲハ類を呼び寄せると同時に四季折々の花も楽しむことができるようにしたいです。

植物と生きもののつながりを学び、老若男女問わず自然が大好きになる空間を作っていきます。



多様な植生の見られる嶺の子山荘への緑豊かな道



カブトムシやクワガタなど、野生の虫取りに夢中

### 培われるもの

きっかけは、2010年の頃。枯れマツを伐採したくてS-GITのチェーンソーワークの安全講習に参加しました。そして、チェーンソーの扱いが大変、というよりも自分の体がこんなにも言うことを聞かないことに驚きました。

S-GITのメンバーになり市民会議の森林探検隊にも何度か参加し、1人で悶々としているころ、スタッフの方たちが植物のこと、森のこと、川のことを楽しそうに話しているのが聞こえました。その話は、自分たちの生活や歴史の話で、必ずしも自然を大切にと行った難しい話ではなく、植物や山、海とどのように係ってきたのかといった内容でした。その話を聞いていると心地良くなり、その時はじめて樹を見て、土を見て、空を見て、すう～と呼吸をして、視界が広がったように感じました。そして、自然の中で縦横無人に動いて遊び、学んでいた幼い頃を思い出し、少し体の動かし方が楽になりました。

現代は、スマホ一台で何でも情報が得られる時代ですが、五感で得たものは体が覚えているものだと思います。市民会議の活動のように、自然環境の中でいろいろと体験できる機会はこれからの時代にも必要なことだと感じました。



森の中の活動をサポートしています

市民会議のイベントに参加したのは、子どもが小学三年生の時。植樹、竹の子掘り、森林探険隊、竹工作、美味しい猪鍋、バームクーヘン、竹切体験、キコリさんの樹木伐採、竈づくり等数多くの企画を子供たちに、いや親子に提供して下さったことに感謝しています。

そんな我が子も高校生になりました。

子どもの参加回数は減ってきていますが、今でも、嶺の子が大好きです。

夏のある日、癒しを求めて朝8時頃ひとりで嶺の子へ行った日のことです。大崩や沢、土囊の様子を見たあと、休憩しようと腰をおろしたところ、みんなで作ったかかしのあたりからガサガサと音がしました。そちらをじっと見ていると、紅く綺麗な鳥の姿を確認することができました。その美しさに鳥肌がたったほどです。

少し小さめの声で「ホーホー」と鳴いていて、どうしても写真に収めたい私は鳴きまねをしました。帰宅後に紅い鳥を調べたら「山鳥」という名で きじ科の鳥だと分かりました。心身ともに癒され、新しい発見もある。それが私たちの活動フィールド「嶺の子」だと改めて感じた一日でした。



親子二人で川上り



山を守る案山子

偶然見つけた野鳥「山鳥」

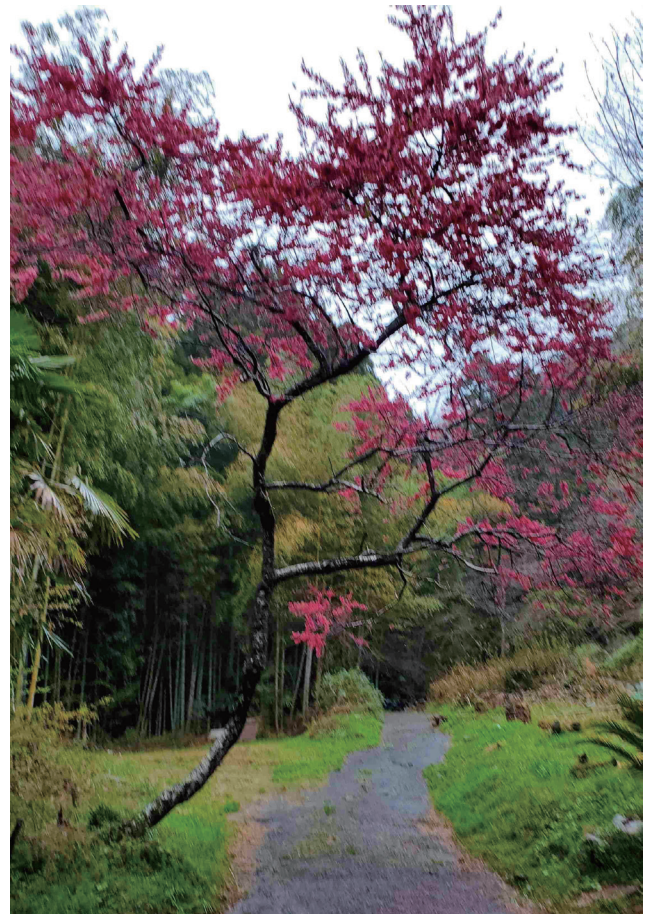
## 間森人会とは

間森人会（まもりびとかい）という名は、「人と森の間をつなぐ会」にしたいという想いが込められています。そんな活動の中で興津川保全市民会議さんとも出会い、事業サポートに入らせていただくこととなりました。

## 繋ぐ役目

私たちが繋ぐことで、また次に繋ぐ人たちに繋ぐ。30年前から興津川の自然を守るためにこの活動を始めてくれた沢山の方々の想いと共に、また、私たちも、これからお仲間になっていくであろう方々とも共にこの活動を守り続けていきたい、そんな想いでいます。

地元の自然を大切に守っていくことができれば、私たちも自然に守られていく関係性でいられる、そう信じています。



嶺の子山荘の中央広場のハナモモの木の花

私は三十代後半になってから林業の施工技術を学びました。近年、気候温暖化が進み、そして農業・林業の後継者不足が取り沙汰され、里山の荒廃が言われる中、地元清水を少しでも変えたくて、市民会議の活動に参加するようになりました。

特に里山の放置竹林は林野火災を広範囲にしてしまい、早急の整備の必要性を感じています。スギ・ヒノキによる林も竹林も同じ人工林で、いったん変えてしまった自然林は人の手で管理する必要があると理解しています。

まずは若い方達に、遊んで、食べて、楽しんでもらい、自然との付き合い方を知ってもらう。子ども達が気軽に参加できるイベントを増やし、嶺の子山荘ももう少し手を入れ、利用していけたらいいと思っています。

興津川が市街地から近くにあるという稀有なロケーションを生かさない手はありません。

微力ながら、お手伝いをさせて下さい。今後ともよろしくお願いいたします。



放置竹林の伐採体験を通し、山の管理を学ぶ



山仕事でお腹を空かして食べる料理は最高!!

事務局員として従事してから、7年の月日が経ちました。

その間、本当に収束するのかと不安になったコロナ禍や、市民の生活に脅威を与えた台風15号がありました。その様な困難を経ても、当イベントへの参加者数は減るどころか年々増え、活動のサポートをしたいと名乗ってくださる方たちも現れるようになってきました。

平成6年の設立から携わっていた方々の想いや積み上げてきてくださった実績の賜物だと改めて感じ、感謝しています。

北海道旭川市という盆地で生まれ育った私にとって、山・川・海にすぐ足を運べるここ静岡市には未だ新鮮に感じる場所が数多くあります。そして、環境教育を実施する絶好の土地だと思っています。

参加者の方々、事業委員やサポーターのみなさんは私に「色々準備などありがとう。」といった嬉しい言葉をかけてくださいます。

感謝をするのは私の方で、みなさんの協力無しでは動くことができません。なにより、イベント当日に見る皆さんの笑顔、達成感や満足感を伝えてくださることにとっても幸せを感じています。

これからも「何事も楽しむ気持ちを忘れないように」を胸に、事務局員としてできる事を精一杯遂行していきたいと思えます。



嶺の子山荘で、山の幸を美味しくいただきました

### (3) 事務局

事務局 伊藤 晃伸

この度は興津川保全市民会議が設立 30 周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。興津川の保全活動だけでなく、環境教育にも注力されていたことが非常に印象的でした。鮎釣り、植樹、ネイチャートレッキングなど、子どもたちにとって、自然の中で遊ぶことの楽しさに気づく、素晴らしい原体験を得る機会であったと思います。私も楽しくて夢中になり一緒に遊んでいたことを今でもはっきりと覚えています。市民会議の活動を経験した子どもたちがいつか大人になって、市民会議の皆様と共に清流の興津川を守り続ける一員になってくれることを願っております。



ロープスライダー器具設置の補助作業



弓矢の安全な使い方指導

事務局 大友 光夫

令和 4 年から 2 年間担当をさせていただきましたが、一番印象に残っているのは令和 4 年 9 月に発生した台風 15 号です。

この 50 年に一度といわれている台風により活動フィールドである嶺の子山荘は大きな被害を受けました。嶺の子山荘に向かう道路の陥没や大量の土砂や流木によって水道施設や竈（かまど）が埋もれてしまうなど、活動再開が出来るのかと心配になるほどの被害を受けました。

2 か月後には森林探検隊のイベントを予定していましたが、災害復旧を目的とした整備には多くの会員の方々が参加していただき、なんとかイベントが開催できる状態まで復旧することができ、市民会議の事業委員と会員の皆様の団結とパワーを感じることができました。



参加者が安全に楽しく活動出来るように見守ります



窯で焼く手作りピザの作り方を教えてもらいました

## 市民会議の活動に参加して

このたびは、興津川保全市民会議が設立 30 周年を迎え、また、長きにわたり興津川の保全活動に尽力された事業委員の皆様、心からの敬意とお祝いを申し上げます。

私は今からちょうど 10 年前に興津川市民会議の活動に 1 年間という短い期間でしたが携わる機会に恵まれました。

当時、私は「市民の森づくり」で初めての植林を体験し、参加された子どもたちと一緒に、山と川は繋がっていること、山を整備することが興津川を守ることにすると学びました。

あれから 10 年が経ち、今の私が森林の整備にかかわる仕事に携わっているのも何かの縁を感じています。

子どもたちと植えた小さな苗木が、大きく立派な「100 年の森」となるよう、興津川保全市民会議のさらなるご活躍を願っております。



川の生きもの観察会での参加者の見守り、誘導



水が増水した時のロープを使った救出作戦の協力

## 清流保全交流事業（他都市との交流事業）

静岡市は第 2 次総合計画（2010 年～ 2014 年）において、「清流の都創造」を重点プロジェクトに掲げ、清流保全の取組に特に力を入れてきました。その取組の一環として、他都市において清流保全に取り組む人たちと静岡市の清流保全団体の交流事業を進めてきました。

### 多摩川エコミュージアムとの交流事業

2011 年（平成 23 年）7 月には、川崎市の多摩川で保全活動をしている「NPO 法人 多摩川エコミュージアム」の子どもたちが、興津川保全市民会議の川遊び・鮎釣りセミナーに参加しました。子どもたちは多摩川では経験できないアユの友釣りや、急流に身をまかせて流れる“カッパの川流れ”を楽しみました。

2013 年、今度は市民会議のメンバーが多摩川エコミュージアムのメンバーとともに横浜市みなとみらいで開催された「夢ワカメ・ワークショップ」に参加しました。これは、日本テレビ「鉄腕 DASH!!」で DASH 海岸を担当する木村尚先生が主催するイベントで、ワカメを栽培することで、海水中の栄養塩を吸収し水質を浄化しようという取組です。11 月に約 10 センチのワカメの種糸をロープに結ぶ作業を行い、2 か月後には一人あたり約 3 キロのワカメを収穫することができました。

現在、残念ながら他都市との清流保全交流事業は行われていませんが、当時小学生だった川崎市の子供もたちは皆さん成人を迎えています。興津川ファンとなった彼らは、きっとまた興津川に遊びに来てくれると信じています。



市民の森づくりで安全な竹林伐採作業をアシスト

事業委員 奥寺 利充

### 市民の森づくりの拠点「嶺の子山荘」

平成6(1994)年興津川保全市民会議が発足し、その3年後(1999)に『市民の森づくり』が始まった。森づくりの目的は「清水市民の命の水である興津川の水源となっている山林の健全な保全育成のため、市民自らが森づくりを行う」とした。市民の森づくりを第1回目から指導してきたのが、みどり情報局静岡(S-GIT)で、その活動拠点となってきたのが嶺の子山荘である。

嶺の子山荘のオーナーは(故)片瀬実さんで、登山と山の動植物をこよなく愛した人である。その山への情熱が高じて、昭和40年から43年に掛けて、清水山岳会の有志延べ200人の協力得て、手作りで山荘を建てた。その建設物語は、事業委員の白鳥勝治さんのコメントで詳しく紹介していただいた。

そして、平成20年には、S-GIT会員の奉仕により山荘の下へ別館『山守集志堂(片瀬さん命名)』を研修所として建設した。この時、片瀬さんは80歳だったが山への情熱は衰えなかった。



嶺の子山荘中央広場の看板

### 『市民の森づくり』の拠点に

市民の森づくりの最初のステージは、森林公園「やすらぎの森」近くの貝伏集落地区の山の中で、公園からは、1時間も歩いた所にあった。風雨で崩れた小道を毎年作り直しながら登った。

平成26年4月から第2ステージに移る。ここは嶺の子山荘から歩いて20分ほどの所にあつて、南西に開けた明るく見晴らしの良い所だった。森づくりの好適地で、参加者が年々増え、植える樹種も増やしていった。嶺の子山荘はベースキャンプのごとく重要な森づくりの拠点になった。しかし第2ステージも、台風などの影響で林道の崩壊が進み、歩くのが危険になり、令和4年から、今の嶺の子山荘の周辺の第3ステージに移った。

### 森づくりを楽しく継続

嶺の子山荘を拠点として、市民の森づくりは毎年行われ、現在に至っている。

春の地ごしらえ、そして植樹、夏の下草刈りと季節を通じて活動し、数多くの親子連れの市民が関わって来た。特に4月の植樹には、嶺の子周辺の竹林で竹の子を採取する。これが大人気で毎年参加希望者が殺到。定員オーバーでも受け入れて、竹の子掘りのあと、匂の味を堪能してもらっている。

### 「森林探検隊」の歴史

平成11年から始まった「森林探検隊」も歴史あるイベントとなった。最初は山梨県境の田代峠に近い興津川の源流域の森林を探検した。その後、探検隊のフィールドも色々に移り替わり、



森林の中のスギ、ヒノキをチェーンソーで伐倒

現在の嶺の子山荘を拠点とした場所に定着する。森の中の沢歩きをして、急な山を登り、谷をロープスライダーで渡る。森の中では、薄暗くなったスギ、ヒノキ林の間伐をチェーンソーを使って行い、光が森の中に入るのを見て間伐の必要性や安全な伐倒方法などを学んだ。

### 嶺の子山荘広場で山の遊び体験

森の中で大迫力の伐倒を見学した後は、嶺の子広場に戻り、シシ鍋をおかずにお昼のお弁当を食べます。午後は、自然の中に生えている木や竹を使った遊びや竹の水鉄砲、弓矢、竹の花瓶づくりなどの物づくりを楽しんだ。

このように、子どもたちを山にいざない、自然の中で遊びながら何かを感じてもらおう活動を続けてきた。



竹の水鉄砲づくりの仕方を指導する



自然の竹で作った水鉄砲で水かけ遊び。

## 嶺の子山荘の今後の活用(案)

これまで市民の森づくりや森林探険隊に参加してくれた家族の様子を見て来た経験を踏まえ、嶺の子山荘の今後の活用について提案する。

それは、現代の少子化社会に生まれた子どもたちは、大事に育てられる一方で、本当の自然に接する機会が少なく、自分で考え、判断して行動することが出来ないように感じられる。

市民会議に参加する子どもの多くが、最初は決して、便利で、清潔なことばかりでない活動に戸惑いを感じているようだが、何度か参加する中で、少しずつ自然の営みに慣れ、一緒に活動する仲間が増え、自分の考えで行動できるようになる。また、刃物や、火などなど、普段禁じられていることも、安全な取扱い方を学び、徐々に使えるようになる。

私は、次世代を担う子が、自然のなかで無心になって遊べる場所において、それぞれがたくましく成長できる機会が必要であると感じる。

嶺の子山荘が、自然の中の一生物である人間の子供たちが、揺るぎなく成長してゆく姿を見守る所になる事に存在意義があると感じている。

## 提案1)「嶺の子山荘」の有効利用を

市民会議が嶺の子山荘を活用するのは年に3回ほどであり、もったいないと感じている。

そのため、月に1回程度は使うように出来ればと考え、新たな活用を提案する。

### ■年間を通した活動へ(案)

嶺の子山荘では、これまで行って来た活動を生かしつつ、年間を通した定期イベントを行うことが考えられる。

#### ①春の市民の森づくり(既事業)

春は、植樹を行い、タケノコ狩り、春の花草花や野鳥などの生物観察会を開催する。

#### ②河童たちの夏(昼)

夏は、昼間は山を下り大網の興津川で魚捕り、飛込み、筏でラフティングなど川の冒険をする。

#### ③夏から秋のキャンプと闇夜の探検隊(夜)

嶺の子山荘の山小屋と、ジャンボシーソー広場の隣に設けたテントサイトで、宿泊キャンプを行う。(なお、トイレ等を設置してキャンパーにも対応できるようにする。)

夜は中央広場でキャンプファイヤーを行い、野外での楽しい交流イベントを行う。

また、闇夜の探検に出掛け、暗闇の星空を眺め、森の静寂の中を散策するなど、町中では出来ない闇夜の世界を体験させる。

嶺の子山荘の宿泊キャンプは、囲炉裏で焚火炊飯し、川の魚や山菜などの料理を楽しむ。また、五右衛門風呂の入浴も出来る。(実施は寒い時期でも良い)



キャンプサイトを整備して森林の中の野外キャンプ



嶺の子山荘内の囲炉裏での焚き火は、現代の子どもたちにはとても貴重な体験となる

#### ④晩秋の森林探検隊（既事業）

山中の森林探検とロープスライダー、中央広場で弓を作ってハンティング、竹の工作をして過ごす。また、温かい猪鍋料理を楽しむ。

#### ⑤冬の「見つめる焚き火」サバイバルキャンプ

キャンプ愛好者向けの企画とする。キャンプは焚き火が大好きなので、寒い冬には、チェーンソーで木を倒し、斧で割って薪を作り、焚き火で体を温める体験をする。

#### ⑥その他の企画

- ・ツリーハウスの建設
- ・ツリークライミング講習会
- ・森林インストラクター養成講座などマニア向けの企画で、子どもだけでなく大人にも利用できるようにする。

### 提案2)「桃の花咲く桃源郷」に

これまでの植林では、春のサクラ、秋のモミジなど多様性のある植林を行って来た。

嶺の子山荘では、3月中頃に当地の開発者の片瀬さん達が植えたハナモモの木にピンク色の花が咲くのが見られる。

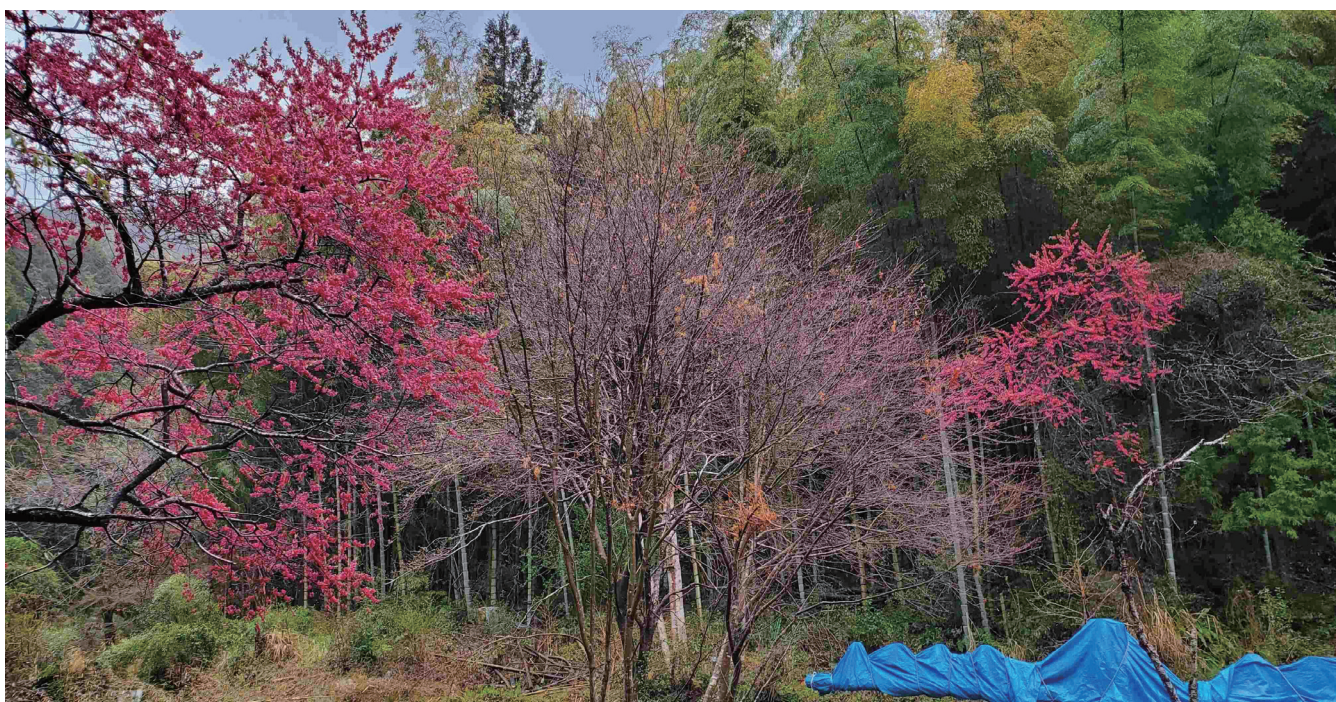
そのため、今後の市民の森づくりでは、ハナモモの木を重点的に植栽し、嶺の子山荘を『桃の花咲く桃源郷』にしようと、計画している。

#### ■嶺の子山荘を子どもたちの夢の森に

桃の花咲く桃源郷で、子どもたちが自由闊達に自然に親しみ活動できる夢の森づくりが出来れば、片瀬さんもきっと喜んでくれると思います。



四季折々の自然の山の中を散策する



3月中旬頃にハナモモの木にピンクの花が咲く桃源郷に

## (2) 川の活動拠点『リバーサイドテラス公園構想（案）』

事業委員長 望月誠一郎

### ■これまでの川の活動展開

事業委員会の活動の経過とそれに伴う課題は以下の通りです。

#### 『市民の目が興津川の清流を守る』活動

令和6年8月に興津川保全市民会議が発足して以来30年間、事業委員会では、『市民の目が興津川の清流を守る』との考えのもと、市民が川と山に集まり活動する定期イベントを毎月1回のペースで継続してきました。

参加者が興津川に集まり、清流を眺め、遊び、常に関心を持つ活動により、ゴミのポイ捨て、不法投棄、乱開発を防ぎ、興津川の清流が守られてきたと考えています。

#### 興津川流域を活用したイベント展開

これまで事業委員会は、興津川の源流から河口までの27kmを下る探険隊をはじめに、毎年定例イベントとして、鮎釣り教室と川遊び、川の生きもの観察会や毎年10会場、1,000人以上が参加する興津川クリーン作戦などの活動を実施してきました。これらの川の活動により、月1回は市民が興津川に近づき、市民の目が興津川に向けられるように続けてきました。

### ■活動継続における課題

市民会議の企画は好評で、毎回、参加者の募集数よりも参加希望者が多くあり、いつも賑やかに開催しています。

しかしながら、事業実施場所は、清水和田島自然の家等の活動場所が失われたため、各企画ごとに興津川の適地を捜して実施していますが、拠点となる広場や必要な設備、トイレの確保などが難しくなり、毎回苦労しています。

特に、コロナ禍以後においては、事業を行うに際し、次に示すような必要経費が増加し、準備の手間が増え、スタッフに大きな負担となって来ています。

そのため、今後も活動を継続するにはそれらの課題解決が重要となっています。

#### 1) トイレ対策

課題の一つがトイレです。興津川でのアユ釣り教室と川遊びの会場は、これまで現地にトイレがない時には、工事やイベントなどで使用する仮設トイレをレンタルしました。これは、参加人数に対するレンタル料が高いことと、雨のための突然の中止などを考えるととても負担になっています。

また、青少年自然の家等のフィールドがなくなり、公的な施設のトイレを借用することも難しくなって来ています。

#### 2) 駐車場対策

川の生き物観察会（川のセミナー）では、コロナ以前には、観光バスを借り、参加者は清水区役所に集合して全員で川の観察場所を移動しました。しかし、コロナ以後は、団体行動は止め、バスの借用料が高騰したこともあり、参加者の車で会場に直接集まり開催しています。そのため、駐車場のある開催場所に限定されています。

#### 3) 日陰を確保できるイベント広場

異常気象といわれる近年の天候は、夏は暑く、突然の雨や天候の急変があるなど大変です。そうした状況下では、着替えや食事、休憩をとるための簡易テントを設置できるスペースの広場が必要となります。イベント対象になる川に隣接したイベント会場の確保が望まれます。

#### 4) 市民会議の活動に対応した常設の広場を

市民会議が開催する多様な川のイベントに対応した常設の広場が無いと、その企画毎に活動場所を確保し、必要な施設や設備を関係者と相談して確保しています。

必要な設備等が備わった川の活動拠点となる広場を確保できれば、これまで以上に多様な活動を行うことができるようになります。

## ■川の活動拠点の整備を

市民会議の活動目標である『市民の目が興津川の清流を守る』との考えを更に進めるためには、静岡市民のだれもが、いつでも興津川に来て、「遊び、学び、交流できる」常設の川の活動拠点が必要であると考えます。

### 1) 位置

#### 山の活動拠点「嶺の子山荘」との連携

市民会議の活動は、山と川の活動を両輪として進めてきましたので、それぞれの活動が常に連携がとれる位置にあることが望まれます。

興津川中流の大網地区の山中に「嶺の子山荘」があり、山の活動拠点として定着してきています。そのため、川の活動拠点も大網地区の河川に面した位置に確保することが好ましいと言えます。

### 2) 川の活動拠点整備の考え方

- ①興津川流域の地域アイデンティティ（独自性）を持ったリバーサイド公園とする
- ②静岡県民の誰もが清流興津川の水辺においてその良さを感じ、楽しく集える場とする
- ③興津川を訪れる来訪者等に対し、清流興津川の魅力を紹介、学習出来る場とする
- ④興津川流域の住民、特に両河内地区住民の活性化に資する地域と連携した公園とする
- ⑤地域で活動する団体等と協力し、有効に活用される施設づくりとする

### 3) 必要な施設整備等

- ①興津川を見ながら訪れた人達がゆっくりと過ごせる施設
  - ・展望施設
  - ・休憩施設（ベンチ）
  - ・地元両河内の茶飲み施設
  - ・お弁当などの飲食が出来る場所
  - ・ゆっくりと横になれる場所、広場
  - ・バーベキューなどができる場所

- ・市内の学校や家族が来れるピクニック広場

#### ②興津川学習施設

- ・興津川に関して学べる情報施設
- ・河川整備に関して学べる情報施設
- ・興津川の水生生物観察の場
- ・興津川の野鳥観察の場

#### ③イベント等の活用施設

- ・各種イベントの行える多目的広場
- ・簡易テントなどを設置できる場所
- ・準備場所（イベントなどの荷物置き場、湯沸かし・調理台などに使える設備）

### 4) リバーサイドテラス公園構想（案）

ここでは、大網地区の河川に面する用地を想定したリバーサイドテラス公園構想（案）を提案します。

#### ①2つの展望施設ゾーン

興津川に面した北と南側に川を見るビューポイントとなり、ホッと一息つける2つの展望ゾーンを配置します。

#### ②中央多目的広場ゾーン

中央には興津川を見ながら多様な活動の出来るオープン広場を配置します。

#### ③興津川を望むテラス広場ゾーン

東側の興津川に面して傾斜し、川を見ながらくつろげるテラス広場ゾーンを配置します。

#### ④付帯施設スペース

中央部には、この公園を有効活用するために必要な器材などを運び入れる車寄せや水道、竈などの準備施設エリアを配置します。

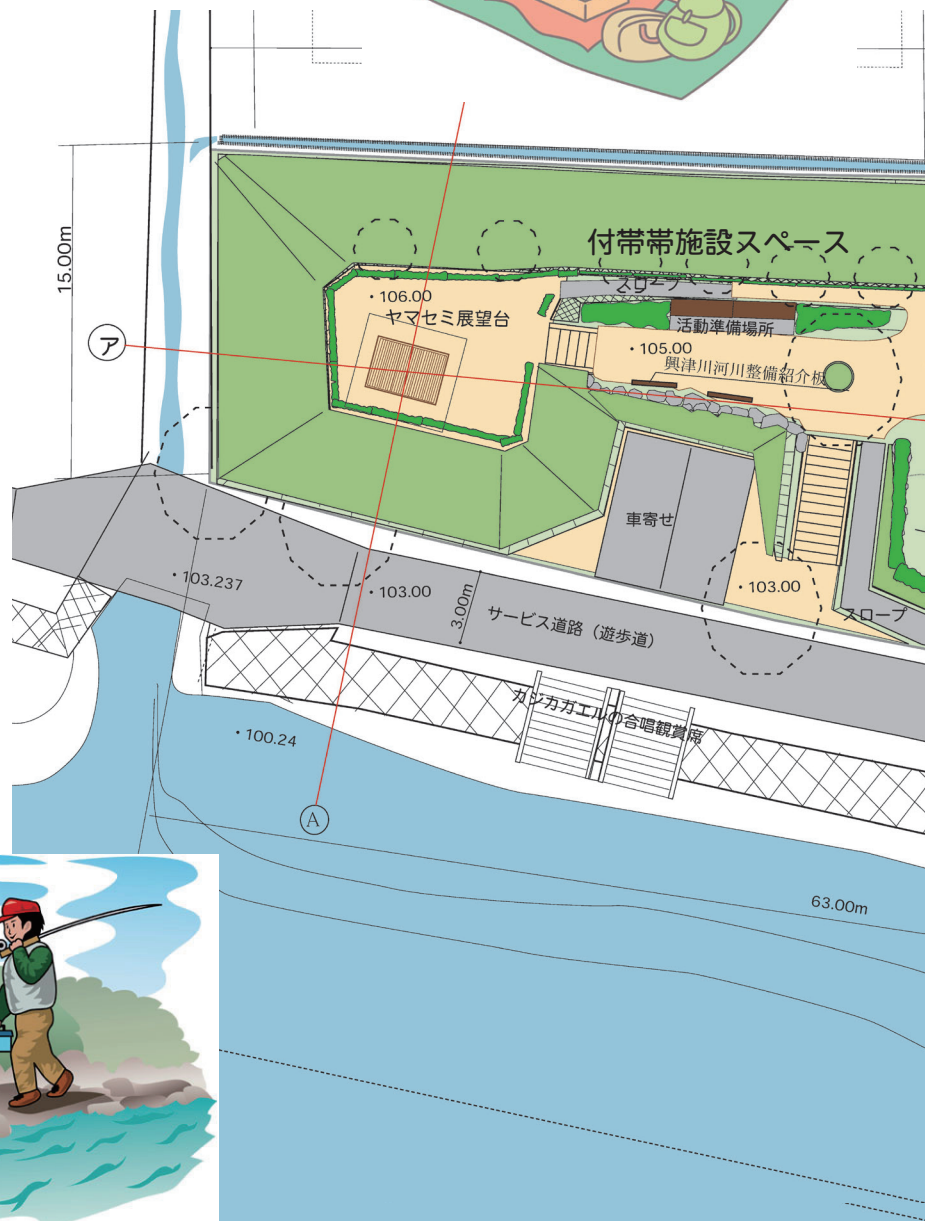
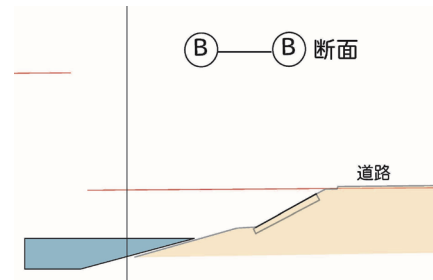
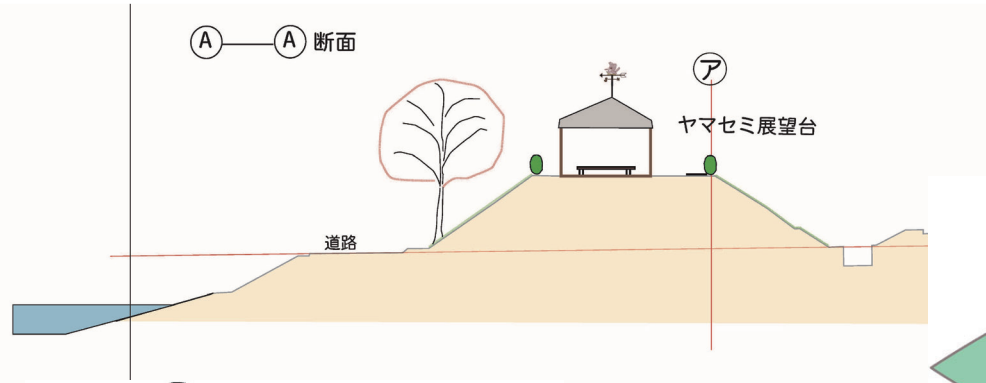
### 5) リバーサイドテラス公園構想（案）

以上を踏まえたリバーサイドテラス公園構想（案）を次に示します。

なお、当計画地は公園構想（案）を検討するために想定した地区であり、具体的に定まっているものではありません。

## 川の活動拠点「リバーサイドテラス公園構想（案）」

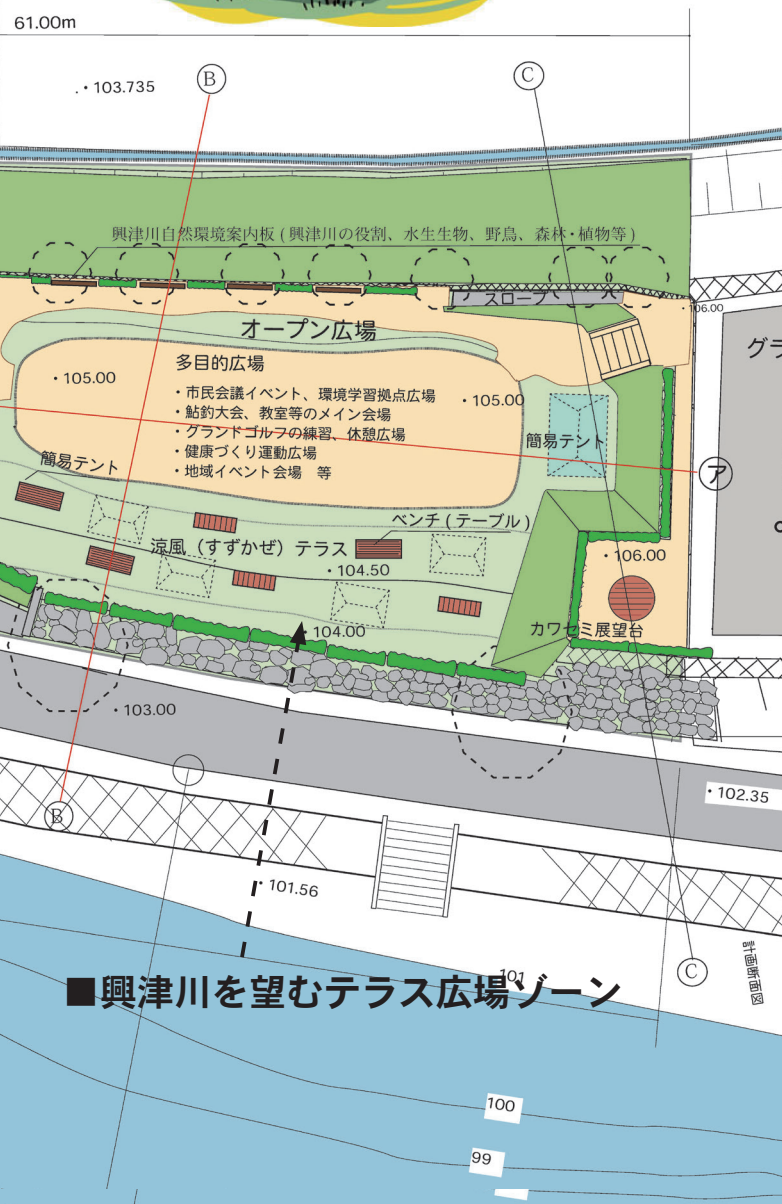
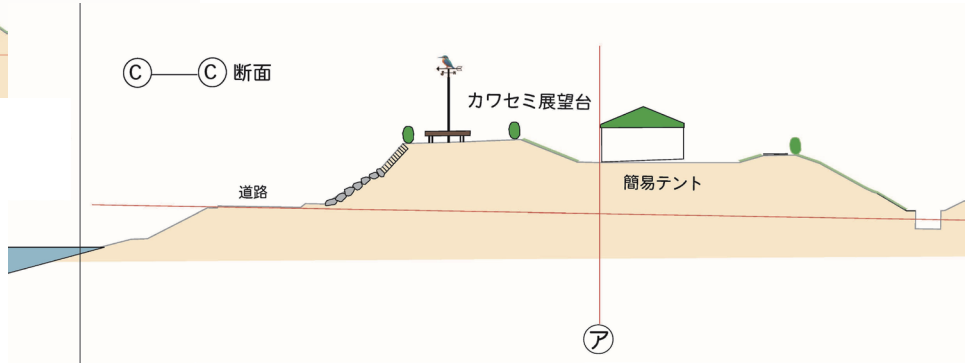
### ■ヤマセミ展望施設ゾーン



## ■中央多目的広場ゾーン



## ■カワセミ展望施設ゾーン



興津川保全市民会議 事務局 西野 真理恵

興津川保全市民会議の活動は、市における興津川保全市民会議の助成金、市民会議の会員会費、活動における参加費、及び市内の企業・団体からの活動への助成金、寄付金等の支援を受けて運営を行っています。

### (1) 興津川保全基金（以下、敬称略）

令和7年3月31日現在の興津川保全基金は以下の通りです。

市民会議では、会の運営、事業実施、参加者の活動補助などに有効活用しています。

#### ■興津川保全基金

名 称	寄附金額（円）	備 考
<b>市費</b>		
予算措置	100,000,000	平成6から8年にかけて、旧清水市積立金
臨時措置	7,705,000	平成13年度に清水清掃工場で見つかった遺失物を、市の一般会計に組み入れた上で、基金へ積み立てた。
小計	107,705,000	
<b>利子</b>		
利子分	5,501,027	平成6年度当時の基金の利子を基金に積み立てた。尚、平成7年度以降は、利子を一般会計に組み入れた上で、興津川保全市民会議等で運用している。
小計	5,501,027	
<b>寄附金</b>		
企業・団体	118,575,884	平成6年度から現在に至るまで受けた計208件の合計
自治会	18,293,901	平成6年度から現在に至るまで受けた計227件の合計
個人	1,964,982	平成6年度から現在に至るまで受けた計80件の合計
小計	138,834,767	515件
<b>合計</b>	<b>252,040,794</b>	<b>令和7年3月31日現在</b>

### (2) 保全活動に対する助成金、寄付金

近年では、市民会議の活動内容を企業・団体等に認めていただき、助成金、寄付金を受領しています。

これらの活動資金は、市民参加による山と川における多様な活動運営資金として、また、植樹のための苗木購入、川の生きもの観察会における資材購入費など有効に活用させていただいています。

これらの企業・団体に大変、感謝すると同時に、今後の新たな取組における支援をお願いします。

#### ①活動助成金

助成金をいただいた企業・団体名です。

- ・三菱 UFJ 信託銀行 株式会社
- ・一般財団法人 セブンイレブン記念財団
- ・公益財団法人 静岡県グリーンバンク

#### ②活動寄付金

寄付金をいただいた企業名です

- ・日本生命保険相互会社
- ・日本コカ・コーラ株式会社

# 終わりに

## 興津川保全市民会議の活動を通じたサステナブルな「人づくり」

静岡市環境局長 田嶋 太

私は、静清合併の翌年、2004年（平成16年）に環境保全課に異動し、興津川保全市民会議の担当となり、活動を通じて様々なことを学ばせていただきました。

近年、AI(人工知能)の進化が著しく、知識を得る方法が大きく変化しています。

これまでのように大量の情報を暗記するだけの学習は、AIによって補完・代替されるようになりつつあります。知識の詰め込みではなく、自ら考え、体験し、学び取ることがより重要になっています。

そのような中、興津川保全市民会議が実施している「森づくり」や「アユ釣りセミナー」「森林探検隊」といった自然の中で得られる体験は、これからの時代において、ますます価値を持つ活動だと思います。

例えば、「森づくり」では、下草刈りに使う「鎌」を砥石で研いたり、自分の植えた「木」に名札を付けるなど、ただ単に作業をするのではなく、道具の扱い方や手入れの大切さの学び、自ら木を植える充実感などを味わうことができる魅力ある活動です。

また、川での活動においても、他ではなかなか経験できない貴重な体験活動が行われています。

その一つが、「アユ釣りセミナー」です。参加した子どもたちは、初めて挑戦するアユ釣りに興奮し、実際に魚を釣ることで、アユの生態や川のことを身をもって学べる貴重な機会になっています。

他にも、「ガサガサ」で、魚を捕まえて観察したり、沢登や水切りなどの川遊び、川に流される体験など、子どもたちは目を輝かせながら自然を楽しみ、都会では味わえないことを体感しています。

また、タケノコ掘りや猪鍋の試食など、地元の食文化に触れる機会を通じて、自然と共生する知恵

や、人と自然のつながりを考える機会にもなっています。

こうした自然体験は、創造力や問題解決能力を育む点でも重要です。

AIは、膨大なデータをもとに合理的な答えを導き出しますが、自然の中では、予測不可能な状況が生じることも予想されます。

例えば、大雨の後に川の流れが急に変わったり、森の環境が変化することも考えられます。そうした場面で、現状を観察し、考え、チームで協力して解決策を見つける力が求められることとなります。これは、どのような時代になっても必要とされる能力であり、自然体験を通じて養われる貴重なスキルです。

また、自然の中での体験は、心身の健康を支え、感性を豊かにする役割も果たします。森を歩くことでリラックスしたり、川のせせらぎを聞いて心が落ち着いたりするように、自然は人間にとって欠かせない存在です。

特に子どもたちにとって、幼少期から自然に触れることは、健全な成長にとって非常に重要です。まさに、興津川保全市民会議の自然体験活動は、子どもたちの人間形成「人づくり」を担うものであり、今後ますます重要と考えます。

この素晴らしい活動が、これからもずっと続いていくことを願っています。



第1次市民の森づくり参加者とともに（後列右から3人目）



---

興津川保全市民会議  
活動 30 年の歩みと  
未来への取り組み

活動 30 周年 記念誌

(やませみ通信特別号)

－第 47 号－

【発行年月日】  
令和 7 年 3 月

【発行】  
興津川保全市民会議

【事務局】  
〒 420 - 8602 静岡市葵区追手町 5 番 1 号  
静岡市環境局環境共生課内  
TEL 054-221-1319  
FAX 054-205-2666

---



静岡市「清流 100 選」  
撮影者：望月正晴  
撮影場所：興津川（立花）